

# 雇用農実態調査報告書

昭和43年度

- ブラジル国 ○ サンパウロ州
- 〃 ○ リオ・グランデ・ド・スール州
- 〃 ○ サンタ・カタリーナ州



海外移住事業団

RY

国際協力事業団

受入 月日	'84. 9. 13	703
		81
登録No.	14842	EM

## は し が き

本資料は昭和43年度雇用農の実態調査にあたったサンパウロ支部ならびにポルトアレグレ支部よりの報告書を取りまとめたものである。

調査地域は、雇用農最大の受入地域であるブラジル国サンパウロ州と、今後さらに受入れを期待される南ブラジルのリオ・グランデ・ド・スール州およびサンタ・カタリーナ州の3州であり、既雇用農移住者（雇用・分益・借地）の独立にあたって指導・援護の資とするとともに、合わせて、青年移住希望者に対する啓発・指導用資料としても活用されたい。

JICA LIBRARY



1025328[4]

昭和45年3月

業務第2部長

4.3年度 雇用農実態調査報告書正誤表

頁	行	誤	正
8	下 4	・・・が多く戦中派は、大卒	・・・が多く戦中派は、戦後派大卒
11	下 4	・・・は、「独立のため」が最も移動件数が多い、	・・・は、「独立のため」が275件中/84件、2回、3回が最も移動件数が多い、
25	下 5	サンパウロより/5軒・・・	サンパウロより75軒
35	上 8	・・・については、現在籍の値もよく	・・・については、現在籍の値もよく
59	表中その他欄	イジユイ=1	イジユイ=0
65	表右肩欄	金額単位もれ	(金額 NO\$ 1.00)
67	表中職業欄	東南山岳地域=7-	東南山岳地域=0
73	表左下欄外	商業家族中・・・	(注) 商業家族中・・・
74	表中形態別欄	分類表題記入もれ	農 業
83	表中二世コチア欄	雇 用 = 2	雇 用 = 0
"	サンタ・カタリナ州 表中後より2欄	(不明)4	(不明)1
85	表中滞伯年数/5欄	合 計 = 1.1	合 計 = 1
88	表中借地欄	(農拓協・青年隊欄)の次が(事業団欄)になっているが誤り/欄入る	(農拓協・青年隊)の次(農友会で回数欄4=/ 合計欄=)
"	左下表外	サンタ・カナリナ州	サンタ・カタリナ州

# も く じ

1. サンパウロ州	
1.1 調査方法の概要	1
1.2 調査集計結果の概要	3
1.3 主要項目別の分析	5
1.4 独立移住者についての考察	22
1.5 地域概況	
1.5.1 サンパウロ近郊	25
1.5.2 ソロカバナ線	28
1.5.3 サントス・ジュキア線	30
1.5.4 アララクワラ線	31
1.5.5 中央線地帯	32
1.5.6 旧パラナ街道地帯	34
1.5.7 バウリスタ線	34
1.5.8 モジアナ線	35
1.5.9 ノロエステ線	36

## 付 表

1. 州別・形態別百分比	39
2. 県別・家族別・営農形態別	40
3. 独立者の営農職種別数	44
4. 所有地面積	45
5. 資産状況	46
6. 自営農家における過去1年間の収支状況	47
7. 自営農家における現在の営農状況	48

8. 借地農家における現在の営農状況	49
9. 分益農の形態	50
10. 雇用農の給与状況	51

## 2. リオ・グランデ・ド・スール州, サンタ・カタリーナ州

表

2.1 戦後移住家族分布表	54
2.2 地域別形態表(1)家族移住者	56
2.3 地域別形態表(2)単独移住・現在単身	58
2.4 地域別形態表(3)単独移住・現在妻帯	60
2.5 戦後移住者・家畜保有数	62
2.6 地域別家畜保有数	63~64
2.7 地域別耕作面積と生産物販売額(1)	65
2.8 地域別耕作面積と生産物販売額(2)	66
2.9 地域別耕作面積と生産物販売額(3)	67
2.10 都道府県別移住者数	68
2.11 家族移住者の学歴別形態表	70
2.12 単独青年移住者の学歴別形態表	71
2.13 現在独立農の着伯年次別携行資金	72
2.14 家族移住者・形態別携行資金	73
2.15 単独青年移住者の形態別携行資金	74
2.16 単独青年移住者の着伯年次別携行資金	75
2.17 家族移住者の着伯年次と携行資金	76
2.18 農家形態別稼働力(家族移住者)	77
2.19 単独移住青年の現況(1)現在単身	78
2.20 単独移住青年の現況(2)現在妻帯	79
2.21 単独移住青年の現況(3)	80

2.22	単独青年移住者の現地結婚数	82
2.23	家族移住者の滞伯年数と移動回数	84
2.24	単独青年移住者の滞伯年数と移動回数	86
2.25	単独青年移住者の移動回数と営農形態(1)	88
2.26	単独青年移住者の移動回数と営農形態(2)	90
2.27	家族移住者・着伯時農家形態と移動回数	91
2.28	単独青年移住者・着伯時農家形態と移動回数(1)	92
2.29	単独青年移住者・着伯時農家形態と移動回数(2)	93
2.30	地区別土地代及び借地料	94~95
2.31	事業団融資利用現況	96
2.32	地域別・事業団融資貸付表	97
2.33	独立時に於ける独立資金調達状況(1)	98
2.34	独立時に於ける独立資金調達状況(2)	99
2.35	独立借地農の資産状況(1)	100
2.36	独立農・借地農の資産状況	102
2.37	独立借地農の資産状況(2)	104
2.38	独立農の資産状況	105
2.39	独立農・地域別資産状況	107 ~108

# 1. サンパウロ州

1.1表 調査対象移住者の分布表



## 1.1 調査方法の概要

### 1. 調査目的

現在サンパウロ州で農業を営んでいる戦后移住者およそ1万家族を対象とし、その1割を占める1,000家族の一般状況、移動経緯、独立時の状況、生活状況、営農収支及び将来への希望等を調査し、今後の農業移住行政の基礎資料たらしめる。

### 2. 調査項目

#### (1) 一般状況

- ア. 渡航前職業
- イ. 携行資金
- ウ. 最終学歴
- エ. 渡航年月日
- オ. 渡航形態
- カ. 家族構成
- キ. 稼働力換算
- ク. 家族の異動状況
- ケ. その他

#### (2) 移動の経緯

- ア. 移動の経費
- イ. 移動の職種
- ウ. 移動の理由

#### (3) 独立時の状況

- ア. 土地の取得
- イ. 購入方法
- ウ. 決定理由
- エ. 資金の調達方法
- オ. 初年度の耕種規模

カ、 初年度の家族構成

(4) 現在の状況

- ア、 営農状況
- イ、 形態別条件及び規模
- ウ、 将来への目標
- エ、 生活状況
- オ、 気候（日本との比較）
- カ、 人間関係
- キ、 食生活
- ク、 住宅

(5) 資産状況

- ア、 資産内訳及び価値
- イ、 資金手当の種類、内訳

(6) 過去1ヶ年の収支状況

- ア、 生産物売上
- イ、 労 賃
- ウ、 雑収入
- エ、 借入金
- オ、 営農費
- カ、 諸設備費
- キ、 生計費

(7) 将来の方向

- ア、 希望職種

3. 調査対象者

(1) 母集団

戦后移住者で現在、農業に従事している家族又は単身

(2) 対象者数

サンパウロ州内 1,000戸

(3) 抽出方法

前回調査に準じる日系人集落での無作為戸別訪問

(4) 調査地点

サンパウロ市近郊及び各鉄道主要地沿線 116地点

4. 調査方法 個別面接聴取法  
5. 調査時期 昭和43年12月  
6. 調査実施機関 サンパウロ支部  
7. 調査人員 11名

1.2 調査集計結果の概要

調査総数1,000戸の内訳は、家族913戸、単身87名である。形態別にみれば、未だ土地を持たず自営農となるべく努力している移住者が全

1.2表 形態別内訳(1)

形態別	戸数	%	備考
自営農	370	37.0	} 63%
借地農	380	38.0	
分益農	155	15.5	
雇用農	95	9.5	
計	1,000	100	

体の63%ある。

地域別には、近郊71.4%、奥地は28.6%で近郊に著るしく集中されている。このことは、近年都市近郊への移動が甚々しく、奥地の生産力低下が問題化しているが、日系コロニア全般的にも同様の傾向が見られる。

渡航年次では、1952年より1968年までと、これは、サンパウロ支部受入実績とほぼ比例しており、移住が盛んであった1955年より1960年までが最も対象者が多かった。

そのため、この集計結果において家族当り人数がやゝ多すぎる結果となっているので、本数値を、単純に10倍し戦后移住者の内容を推測することは適当でない。

一方、営農形態と在伯年数との関係を見ると、自営農は、在伯9年以上から急に多くなり、移住后10年が一つのくぎりであることを示している。10年過ぎて、なお、雇用農生活を送っている者は、その適性の可否、原因を追求し何らかの援護策を講じるべきであろう。

独立への過程をみると、移動する毎に独立迄の距離(時間)が遠くなっており動かないこと、同一パトロンの下で継続して働くことが、独立への早道であることを本集計は示している。

特に、雇用農として来伯し、未経験のうちに借地したり自営農となった者が失敗して再び雇用農又は分益農からやり直すケースが14.5%を占めている。

反面、雇用農一分益一自営(借地を含む)のルートを着実に歩んだ者は3.6%である。

移動の回数は、1~2回が56.6%で過半数を占め1度も転耕しない者は、僅か4.2%に過ぎない。移動の主たる理由は「独立のため」が24.8%「契約終了」「分益又は借地農へ変更」のためが57%を占め、いわゆる、パトロンとの感情問題、賃金等契約問題で移動したケースは14%内外である。

食生活、住生活では常に問題となっているがこの調査結果では不良と回答したものは、3.1%に過ぎない。住居は51.9%が煉瓦造り住宅に住んでおり、所謂「ドロ壁サツベ葺」の生活をしている者は、18.8%あるが雇用農に少なく借地農に多いのは、将来の転住を考慮しているためである。

将来の営農作物として、28.5%が永年作物としての「果樹」と「花卉、鶏、野菜」との複式営農を希望している。又、13.1%が養鶏中心の営農を9.1%が離農希望で商業等への転向を考えている。

### 1.3 主要項目別の分析

1. 調査総数            1,000戸            5,113名  
     内訳                家族913戸(5,026名)  
                           単身 87戸

### 2. 形態別数

1.3表 形態別内訳(2)

自営農	37.0戸	37%
借地農	38.0	38%
分益農	15.5	15.5%
雇用農	9.5	9.5%
計	1,000	100%

\* 未だ土地を持たず、自営農となるべく努力している移住者が全体の6.3%ある。

### 3. 地域別数

1.4表 地域別調査対象数

近 郊	数	奥 地	数
サントアマーロ	43	ソロカバナ線	23
イタケーラ	36	パウリスタ延長線	60
スザノ	58	ノロエステ線	71
モジダスクルーゼス	122	アララクワラ線	35

近 郊	数	奥 地	数
A B C 地 区	2 3	パウリスタ本線	1 7
イビウナ、ソロカバ	8 2	モジアナ線	2 7
ブラガンチーナ	1 1 2	サントス・ジュキア線	5 3
カンピーナス	1 6 4		
セントラル	7 4	小 計	2 8 6
小 計	7 1 4		

\* 近郊は71.4%、奥地は28.6%で近郊に著しく集中されている。

#### 4. 出身県別数(1.5表)

熊本がトップで、8.9%、次いで福岡、福島県となっている。東日本31.3%西日本68.7%で2/3以上が西日本から出ている。

営農形態別による出身県別をみると、自営農として安定した者が、福島3%、北海道2.7%、熊本2.4%、福岡2.0%、長野1.9%と逆に東日本が上位を占めている。

1.5表 出身県別数

県 名	戸数	県 名	戸数	県 名	戸数
北 海 道	4 7	栃 木	6	富 山	1 1
青 森	4	群 馬	2 2	石 川	3
岩 手	1 1	埼 玉	5	愛 知	1 0
宮 城	1 6	千 葉	1 0	岐 阜	5
秋 田	9	東 京	1 4	三 重	1 6
山 形	1 5	神 奈 川	4	福 井	8
福 島	7 5	山 梨	1 5	滋 賀	4
新 潟	8	長 野	2 9	京 都	4
茨 城	6	静 岡	1 7	大 阪	6

県名	戸数	県名	戸数	県名	戸数
兵庫	12	徳島	6	大分	4
奈良	0	香川	12	宮崎	51
和歌山	40	愛媛	33	鹿児島	53
鳥取	2	高知	40	沖縄	44
島根	11	福岡	83		
岡山	15	佐賀	23	合計	1,000
広島	25	長崎	40		
山口	37	熊本	89		

5. 渡航年次別数では、1952年渡伯より1968年までサンパウロ支部受入実績数にほぼ比例している。移住が軌道にのり大量送出を始めた、1955年より激減した1962年の前年までが対象者数も最も多かった。

1.6表 渡航年次別内訳

着伯年次	件数	着伯年次	件数
1952年	4件	61年	102件
53	14	62	37
54	34	63	21
55	83	64	19
56	89	65	9
57	145	66	7
58	153	67	7
59	138	68	10
60	128	計	1,000

6. 営農形態と在伯年数の関係を見るに、自営農は、9年以上から急に多くなり14年迄で、15年以上は又減少している。

これは、移住者数が少くなった為で、結局、少くとも10年は頑張らなければならぬということがわかる(1.7表)。

1.7表 営農形態別・在伯年数別調査対象

年 形 態	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	計
自 営	0	0	0	2	4	4	14	21	46	39	65	55	47	43	22	6	2	370
借 地	0	0	1	2	4	5	22	45	53	63	59	58	28	24	9	5	2	380
分 益	2	0	0	0	5	6	7	26	21	25	21	21	7	10	3	1	0	155
雇 用	9	6	8	3	4	5	5	10	10	8	11	7	6	2	0	1	0	95
計	11	6	9	7	17	20	48	102	130	135	156	141	88	79	34	13	4	1,000

資金を持たない雇用農移住者が土地を持って自営農となるには、最低3年以上かかる。最近では、家族移住者が無いためか借地農となる者も3年目からである。

10年過ぎてなお雇用農でいる移住者は、原因を追求し何らかの保護を加える必要がある。

7. 学歴別(1.8表)にみると、旧高小卒が圧倒的に多い。いわゆる戦前派が多く戦中派は、大卒・士官学校出の変り種を含めて高等教育を受けている者が多い。

旧高小卒、小卒の戦前派は、実に勤勉で良く働き体を資本に借地・自営農となって順調な伸びを示している。

高卒，大卒は，頭と体を使って上手な農業経営で伸びている。又，旧農業高校出は，技術を生かして全員独立農として確実に伸びている。従って，学歴は，移住者の成功率に関係がないと言える。強いて言えば，大卒52戸の内，雇用は6名で11.1%，高小卒は，5%でむしろ体を元手の方が伸び率は良いと言える。

1.8表 学歴・営農形態別調査対象

	旧高小	旧中学	旧高専	小学校	中学校	高校	大学	旧農校	その他	合計
自営	146	42	8	16	40	87	25	4	2*	370
借地	143	40	6	22	61	94	12	2		380
分益	67	14	6	8	21	30	9			155
雇用	19	8	3	3	13	41	6		2*	95
合計	375	104	23	49	135	252	52	6	4	1,000

\* 「その他」の自営は士官学校，美術学校卒，雇用は無線学校，  
經理学校卒である。

1.9表 学歴別調査対象

学歴	件数	学歴	件数
旧高専	23	中学校	135
旧中学	104	小学校	49
旧高小	375	士官学校	1
大学	52	旧農校	6
高校	252	その他	3
		計	1,000

\* 無線学校，經理専門，美術学校各1。

8. 渡航前職種別にみると、

戦前・戦中派は、自営農が最も多く52.7%戦后派は、学生で卒業と同時に渡伯したもの11.2%及び勤め人であったもの21.7%(その内工員9.7%事務員7.6%)となっている。

渡伯前職業と渡伯後の成功率は、直接関連性が見当らない。炭鉱労務者出身者がかなりの成功率を挙げているし、事務員出身、自衛隊出身者も、夫々確実な伸びを示している。

1.10表 渡航前職業区分

職 業 名	件 数	職 業 名	件 数
自 営 農 業	527	製 罐 業	1
雇 用 "	13	計	1,000
自 営 林 業	3		
雇 用 "	2		
学 生	112		
雇 用 技 術	97		
" ( 鉱 業 )	24		
自 営 鉱 業	2		
自 営 工 業	44		
" 営 商 業	65		
事 務 員	76		
運 転 手	3		
販 売	9		
建 築 土 建	3		
漁 業	6		
自 衛 隊	4		
船 員	3		
雇 用 漁 業	1		
運 送 業	1		
半 農 半 漁	1		
" 半 商	1		

9. 家族の労働力の問題は、成功に直接影響がある。雇用農の場合、1件の例外を除いて労働力が悪い方へ比例して多くなっている。1.1～2.0までが最も多く36.9%を示している。これは青年が独立したら結婚するためで、今後ますます1以内が減ってくるものと思われる。

1.1.1表 営農形態別労働力換算率表

	自営	借地	分益	雇用	計
1.0以内	14	44	19	52	129
1.1 ~ 2.0	126	152	66	25	369
2.1 ~ 3.0	91	63	27	10	191
3.1 ~ 4.0	53	61	23	4	141
4.1 ~ 5.0	49	37	13	3	102
5.1 ~ 6.0	26	9	4	0	39
6.1 ~ 7.0	9	13	2	0	24
7.1 ~ 8.0	2	0	1	1	4
8.1 ~ 9.0	0	0	0	0	0
9.1以上	0	1	0	0	1
計	370	380	155	95	1,000

10. 移動回数をみるに、戦后移住者は、とくに広散性と移動性が顕著で把握し難いと言われて来たが1度も移動してない者が4.2%で、そのほとんどが、最近移住してきた青年である。

1回の移動は、「独立のため」が最も移動件数が多く、最多移動回数は、最高11回である。移動する者は、雇用・分益であって借地・自営はほとんど動かない。4回までが多いのは、雇用農の独立パターンが雇用一分益一借地一自営の4段階を基本としており、移動回数4回までが

全体の94.3%を占めている。

1.12表 移動回数別転耕数

移 動 回 数	件 数
0	42
1	275
2	291
3	230
4	105
5	44
6	10
7	2
11	1
計	1,000

11. 着伯より独立までの移動回数

をみると、移動する毎に独立えの距離が離れる。

逆に言えば、動かないことが独立えの早道であると云えよう。

この移動回数と独立までの経過年数とは、微妙な相関々係が示されている。(114表)

即ち、独立までの経過年数では1年未満の者117戸あるが、これは独立資金を有する者でいきなり独立した事例であるが、

1.13表 移動回数別独立者数

回 数	件 数
1	395
2	236
3	122
4	31
5	12
6	2
7	2
10	1
計	801

\* 独立后、再び分益42, 雇用11, 計53の戻った者を含む。

独立后その半数が全財産を失くし再び雇用，分益に逆もどりしている。  
4～5年で独立した者は，4ケ年の雇用契約に基くもので，コチア青年，  
南伯雇用農等の大部分がこの時期に独立を計っている。

このことは，4年間パトロンの元でしつかりと営農技術を身につけて  
独立せしめ，その際は，融資等の側面援助があれば，順調に伸びて行く  
ものと思われる。又，少なくとも，着伯后あせらずに8～10年の計画  
をたて農業に取り組めば，余程  
のことがない限り98%独立は  
可能であるということが指摘で  
きる。

12. 独立までの経過（1.15表）  
は，紆余曲折，移住者個々の能  
力，資金，職種，経済条件等々  
により千差万別のケースがみら  
れ一定のパターンを示すことは  
難しい。従って，移住希望者  
に対するこの面での指針を得るこ  
とはできなかつたが，この調査  
によって明らかとなったのは，  
独立農となるのには運の極めて  
強いもの，或は特殊なケースの  
ものだけというのではなく，独  
立できるものが普通で，換言す  
れば，特に運の悪かつたもの，  
勤労意欲・根性に欠けるものなど，  
一部の者のみが独立できず低迷  
しているということであろう。

1.14表 滞伯年数別独立件数

経過年数	件数
1年未満	117
2	87
3	96
4	102
5	138
6	84
7	60
8	41
9	29
10	26
11	8
12	11
13	2
計	801

\* 独立后分益42，雇用11，計  
53の戻った者を含む。

1. 1 5 表 独立までの移動経過

1. 自 営 農	370	雇-自-雇-借	3
雇-自	184	雇-分-雇-分-借	3
雇-借-自	77	雇-自-分-借	2
雇-分-自	53	雇-借-分-借	3
雇-分-借-自	16	雇-分-自-借	1
分-自	24	雇-分-雇-借	1
雇-自-借-自	2	雇-借-分-自-借	1
雇-借-雇-自	2	分-借	16
雇-自-雇-自	2	分-雇-借	2
雇-分-雇-自	2	分-雇-分-借	2
雇-分-雇-借-自	1	分-借-分-借	2
雇-自-分-自	1	分-自-借	1
雇-借-分-自	1	分-借-自-分-借	1
雇-借-雇-借-自	1	分-雇-分-借-分-借	1
雇-自-雇-分-借-自	1	分-雇-借-雇-借	1
雇-分-雇-分-自	1		
分-借-自	1	3. 分 益 農	155
分-雇-自-雇-自	1	雇-分	82
		雇-借-分	21
2. 借 地 農	380	雇-自-分	9
雇-借	221	雇-分-借-分	9
雇-分-借	97	雇-分-雇-分	2
雇-自-借	7	雇-自-借-分	3
雇-分-借-分-借	5	雇-借-雇-分	2
雇-借-雇-借	6	分	22
雇-借-自-借	4	分-雇-分	2

分—自—分	1	雇—借—雇	2
分—借—分	1	雇—分—借—雇	2
分—借—自—分	1	分—雇	4
4.雇 用 費	95	分—自—雇	2
雇	67	分—借—分—雇	1
雇—分—雇	13	合 計	1,000
雇—自—雇	4		

13. 独立初年度の作物，規模は1.16表の通りであるが，蔬菜農が最も多い。これは主として，資金的な面と技術面が要因で独立しやすい職種と言える。果樹，養鶏等の希望者であっても，独立当初の資金回転のために蔬菜をやり，その間に果樹の植付け，或は設備の整備を行なっている。

最近は花作りが脚光をあびている。小面積，小資本で収益性の高い花作りは独立が一番早く資金の回転も良いため成長率が最も早いので急激に増加してきた。

主として近郊の青年移住者がこの花作りで成功してきている。

作物と規模との関係は，個別にデータを出すことにより一定のパターンが示されるが，一般蔬菜の場合は，1戸当り平均1ha強，果樹は5ha雑作12ha，花の場合は1.0ha，養鶏1-0-0-0羽弱となっている。

特に花作りでは，バラが小面積の0.4ha程度で独立の第一歩を踏み出している。

1.16表 独立初年度の耕種規模

作物名	件数	面積 (ha)	作物名	件数	面積 (ha)
そ 菜	103	203.74	パ タ タ	53	264.15
ト マ ト	124	147.87	雑 作	19	259.49
バー ジェン	52	30.82	米	19	109.54
アルファセ	45	45.47	アルゴドン	17	160.32
ポプリーニヤ	20	12.01	ミ ー リ ヨ	16	105.58
人 参	18	7.07	アモンドイン	11	140.56
ビメントン	14	7.41	カフエー	15	107.66
エルビーリヤ	12	3.84	フェイジョン	5	23.44
コーペフロール	9	5.50	茶	13	54.30
ベ ビ ー ノ	15	12.73	桑	9	67.40
レポーリヨ	8	6.70	タ バ コ	1	1.20
アグリオン	5	3.20	ビメントドレイノ	1	0.48
セボーラ	3	5.50	き の こ	1	0.01
ナ ス	3	1.54			
ブロックリー	2	0.02			
エスカローラ	1	0.60	花	16	16.79
キ ヤ ボ	1	2.40	バ ラ	8	3.47
大 根	1	1.00			
ジ ロ ー	1	0.50	グラジオラス	4	6.97
アルカシヨフラ	1	0.50	カーネーション	9	9.02
			菊	2	0.82
			ウバネーテ	1	0.20
果 樹	5	28.01	木 炭	1	200俵
モ ラ ン ゴ	36	55.15	苗 木	2	0.45 ha
ブ ド ウ	6	3.60			
桃	21	33.25			
ラランジャ	2	3.00	養 鶏	105	148,800羽
バ ナ ナ	14	100.68	牛	5	65頭
アバカシ	1	0.30	豚	47	223匹
西 瓜	7	8.73	兎	2	335匹
ゴヤーバ	1	0.03	馬	1	120頭
柿	1	1.80	ブ ー ロ	1	27頭
			山 羊	2	6頭

14. 移動の主なる理由は、

右表2,272件(重複したものもある)を100とすると、パトロンとの紛争、即ち、感情問題、賃金問題、契約問題等で24.3%が転退耕している。

換言すれば、4人の内、1人はパトロンとの調停が必要とされる訳で、人と人との問題が如何に難しいことであるか示す一つのデータであろう。

1.17表 移動の理由

主たる理由	件数
雇用主と共に移動	27
雇用主が耕地を売却	46
雇用主との感情問題	159
賃金支払が悪いため	37
生活環境、保健衛生が悪いため	64
子弟の教育のため	53
独立のため	742
契約終了のため	219
分益又は借地農え変更のため	249
雇用主の契約不履行のため	38
栽培作物の変更のため	181
その他	437
合計	2,272

15. 生活状況(1.18表)についてみると、まづ食生活では不良と回答したもの3.1%に過ぎず、実に96.9%の者が現状に満足している。

住宅問題では、51.9%が煉瓦造の家に住んでいる。泥壁・板壁造りが借地農に多いのはあくまで他人の土地で働くという仮り住居的感觉からであろう。その他不良と回答した者、治安7.5%、人間関係3.1%、気候風土2.4%、日本との比較3.0%と夫々少ないのは、移住者に或程度の土地選択の自由があり、移動の結果落ち着いた土地であることと、やはり総合的にブラジルが気候、風土、食物等において恵まれていることの証左でもであろう。

1.18表 生活状況

内訳	日本との比較										前の所との比較				人間関係		治安				食生活				住宅			戸					
	最良	良	普通または同じ	不良	替	雨が少ない	雨がが多い	季節の変化がない	涼しい	毎日変化がある	南風がつよい	最良	普通または同じ	不良	寒い	暑	最良	普通	不良	最良	普通	不良	通	良	普通	不良	煉瓦造		泥壁造	板壁造			
自営農	53	179	48	8	59	10	1	5	3	2	2	2	126	195	7	17	23	51	188	117	14	24	228	101	17	4	151	197	18	221	61	88	370
借地農	49	217	45	16	38	8	0	2	1	4	0	6	151	190	10	5	18	26	231	112	11	16	204	116	44	3	124	243	10	166	91	123	380
分益農	9	84	28	4	26	4	0	0	0	0	0	8	59	72	4	1	13	2	94	54	5	3	92	51	9	5	46	102	2	70	27	58	155
雇用農	1	51	11	2	19	2	0	2	0	7	0	0	49	36	3	1	6	2	59	33	1	1	63	26	5	0	53	41	1	62	9	24	95
合計	112	531	132	30	142	24	1	9	4	13	2	14	385	493	24	24	60	81	572	316	31	44	587	294	12	75	374	583	31	519	188	293	1000

16. 将来の方向(1.19表)としては、28.5%の者が永年作物としての果樹を中心とする花、鶏、畜産の複式農業を考えており、13.1%が養鶏中心の農業を希望している。

又、9.1%の者が農業に見切りをつけて商業等の転業を考えている。

帰国希望者0.8%の者は、病気をしたり、営農がウラ目ウラ目となり希望を失っている人達で本気で帰国を希望したいというより、むしろ、こんなことなら日本の方が良かった。日本でならもっと稼げたのに……といった程度の発言である。

1.19表 将

来 の 方 向

作物名	件数	作物名	件数	作物名	件数	作物名	件数
果 樹 (*1)	285件	養 鶏 (*2)	131件	養 豚	5件	*1	
果樹 専業	237	養鶏 専業	113	綿	3件	含ム、ブドウ	42件
果樹・養鶏	34	養鶏・蔬菜	13	アバカシー	3件	桃	22件
果樹・花	6	養鶏・雑作	2	苧	2件	ピワ	17件
果樹・肉牛	4	養鶏・肉牛	3	茶	2件	ボンカン	16件
果樹・養豚	2			イ草と茶	1件	リンゴ	13件
果樹・雑作	2			養 兔	1件	柿	11件
		花 卉 (*3)	61件	ビメンタ ド レーノ	2件	ゴヤバ	3件
		花 専業	60	養 魚	1件	梨	1件
		花果樹養魚	1	苗 木	1件		
蔬 菜	56件					*2	
蔬菜 専業	49			現状維持	45件	含む肉鶏	3件
蔬菜・トト	5			現状拡大	7件		
蔬菜・雑作	1	ト ト	18件	希望もてず	9件		
蔬菜・果樹	1					*3	
		養 蚕	16件	其 の 他	91件	含ム、バラ	18件
雑 作	41件	植 林	14件	商 業	48	グラジオラス	5件
				他の職業	18	蘭	1件
		バ タ タ	14件	工 業	4		
肉 牛	38件			自動車修理	4		
肉牛 専業	36	バ ナ ナ	6件	運 送 業	2		
肉牛・雑作	2			漁 業・洋 裁 業	各 1		
		カ フ ェ ー	8件	サービスマ	2		
		カフェ・専業	5	製靴業・ベソソ業	各 1		
		カフェ・養鶏	3	帰国希望	8		
乳 牛	11件			アメリカへ	1		

#### 1.4 独立移住者についての考察

本調査における独立移住者とは、「土地を持った自営農および借地し自己資金で営農している者」をいう。

本調査では、

自営農 370戸 2,064名(内単身9名) 37%

借地農 380戸 1,971名( " 28名) 38%

であり、即ち、75%約3/4に当る者が既に独立していることとなる。

移住者の多かつた昭和56年頃までは、資金を持った雇用農が比較的少なかったが、それ以後は、資金を持った移住者が増加し、自営農として直接、移住地に入植するよりも一度雇用農として経験を積み、その後、自分で土地を探がして独立しようという計画を持って渡伯するケースが多くなった。彼らは着伯後1年位で独立したが、その半数以上が、経験不足と伯国農業界の特殊事情にうとかったことが原因で失敗し、分益、雇用農へ逆もどりした。

一方、4～5年で独立したケースが多いのは4ヶ年の雇用契約に基くもので、コチア青年、南伯雇用農等の大半がこの時期に独立している。特に初期コチア青年は、優秀な者が多く、その中でも耕主の援助を受け、または二世の娘と結婚し、婚家の援助を受けて独立した者はその能力と経営感覚を生かして、今や戦前耕主を陵駕するものも少くない。

家族移住者の場合は、通常、歩合作で資金を蓄積し、土地購入のうえ独立する形をとっているが、これらの人々も家族構成の良好なほど有利の様である。

従って、幼児を抱えた30才代上の夫婦が一番苦しい状態にあるとみられる。

独立者は概して蔬菜栽培農が多い。これは、主として、資金的な面と技術的な面が要因で独立しやすい職種と言える。果樹、養鶏等の希望者であっても、独立当初は、資金の回転のためにまづ蔬菜作をやり、その間に果

樹苗木の植付け、或は設備の整備を行なっている。

最近では花作りが脚光を浴びている。小面積、小資本で生産性、収益性の高い花作りは独立が一番早く、資金の回転が良いため伸び率が最も早いので急激に増加してきた。

主として、サンパウロ近郊の青年移住者がこの花作りで成功している。

独立時には、いづれも、資金的な面で非常に苦慮するが、伯国の農業金融事情が良いので最も困難な時期を切抜けることが比較的容易である。

然し、土地購入に対する融資の道は全く移住事業団に頼らざるを得ない。

土地を持った自営農家は、伯銀、州銀の融資をうけることが出来るので、まづ、土地を持たせることが伯国で伸びてゆくための基本的な要素である。

自己資金のみで独立できるものは殆んど皆無で、借金を持って独立するため、独立後の経済状態は比較的悪く、安定期に入るまで独立後4～5年を要する。

戦後移住者で安定した営農を行なっている者が少ないのは、種々の要因もあるが、この独立期の借金が大きな問題の一つであり、大半の移住者が安定した営農を行ない、余裕を持った生活を享受するに至るまでには、向後10年を要するのではなかろうか。

本調査によれば、独立者で土地を持たざるもの3.8%、分益・雇用を含めると実に63%の多きに達している。

これら移住者に対する最も効果的な援護対策は土地購入資金の貸付けであり、この効果をより高かめるものは、その時期の選定と返済条件の如何である。そうして、これが移住者の営農伸張と生活安定を促進せしめる唯一の処方となるであろう。

## 1.5 地 域 概 況

## 1. サンパウロ近郊

サン・ベルナルド・ド・カンポ，人口13万，サンパウロを除き聖州第一の歳入を得て自動車工業9社，家具工業等が主産業となり，近時急激に大発展した。又，同時に学園都市としても著名である。同市より6軒の地点に瑞穂村（みずほ）という日本人植民地がある。同地区は34年前カフエー・コロノ出身者及びアリアンサ方面より11家族が入植，現在116家族に増加，花，養鶏，蔬菜等を栽培している。とくに養鶏は90%を占め，その中には南米第1と言われる種鶏場がある。

日系植民地では完成された姿として，将来は農産加工の方向付けをしている。日本からの知名人の訪問でも名高い，ユニークなコロニアの一つである。

パレイロス，サンパウロより45軒，マウア産組は，この近郊一帯に約2,000家族の日系農家を擁している。パタタ・キャベツを主産物としているが，まだ新しい地区として，未独立者多くこれから発展段階にあるといえよう。

イタペセリカ・ダ・セーラ，サンパウロより31軒，日系人90家族位，花と蔬菜を主産物とし露天市場に出荷される。最近，奥地からの日系人が流れ込みつつある。

戦後移住者は，約50家族その内 $\frac{1}{3}$ が借地 $\frac{2}{3}$ が自営農で单身青年は極めて少ない。

ジユキチーバ，サンパウロより15軒，バナナ，蔬菜を中心に営農を続けているが，68年のセツカ（乾ばつ）で振わない。

戦後移住者約20家族の内，12家族が自営，残りが借地である。

アチバイア，サンパウロ北々西60軒，標高850米，気候温暖で州観光局でも南米のカルフォルニアと宣伝している健康地である。城内人口4万の内，

日系人は600家族でこの内、戦後移住者は、40%位と推定され果樹栽培、養鶏、花卉経営が大部分を占め、蔬菜農家は苺栽培が大多数である。当地不動産登記所の話では、日系凡そ2,000人が農地を購入しているとのことで近い将来、邦人の大集団地が形成されるであろう。

スザノ、モジ・ダス・クルーゼス各々サンパウロ北方35軒、50軒の近郊都市である。近年モジは、各種工業を誘致し、それにつれて人口も増加した。

日系企業も豊和工業、NGK等が進出し、堅実に伸びており市内在住の日系人も多い。

スザノ管内には、日系の都築紡績が進出している。この地域の日系農家は、リベロンピーレス街道ボワ方面にまたがり推定2,500家族が散在し、レタス、人参、苺、花卉栽培者が多く、主産物はそのまま近辺の都市およびサンパウロへ直売されている。

これに比べ、モジ・ダス・クルーゼス地区の日系人は約3,000家族あり、5指に余る大種鶏場業者をはじめ大規模な養鶏家果樹栽培(イタリアぶどう、ピワ、ゴヤーバ、ポンカン、柿、桃等)、蔬菜(パタタ・その他)花卉、西洋苺、種苗等広範囲の経営がみられ、近郊農業のお手本となっており、市場もリオ、サンパウロ両市に出荷され全体的に大農が多い。

カンピーナス(サントスージエンジャイ線)、サンパウロ北西95軒に位置し、パウリスタ、モジアナ、ソロカバ支線の分岐点として奥地交通の要衝である。近くにピラコソポス国際飛行場がある。

標高600米、雨量1,300耗、気候温暖のため州内の主要農業生産地帯であるとともに近年工業生産でも躍進をとげている。市内人口約25万人、郡面積は53平方軒、付近に日系植民地としてマクコ植民地、東山植民地、

ジャガリウーナ植民地等があり、日系人は約1,200家族と推定される。

日系人の農業生産は蔬菜(ナス・トマト・ピーマン等)、果樹(ぶどう、いちぢく、パイナップル)、養鶏、花卉(グラジオラス)等広範囲にわたっており、いずれも安定している。

ジユンジャイ(サントスージュンジャイ線)、サンパウロより65軒、工業地帯として変貌しつつある。近辺の地形はあまり良くなく、かつ、海岸山脈の気候の影響で農業地帯としての発展は期待されないが、イタリア人植民者等の努力により、州内一のぶどうおよびいちぢくの生産地として有名である。

日系はカンピーナスに比べて少ないが、苺、果樹、葉野菜、花卉等が主であり借地農が多い。

バルゼン・グランデ(ソロカバナ線)、サンパウロ南50軒、ソロカバナ、プレジデンテ・ブルデンテ方面とイビウナ、ピエダーデ方面との分岐点にある。標高800米、降雨量1,500軒、地形悪く一般に植林及び放牧地として利用されている。

日系人はこの地帯が冷涼なるため地形が悪いにもかかわらず、パタタ・トマト・葉野菜(レタス等)、マンジョキンニヤ、苺作等を栽培している。当地日系人は約250家族と推定され、コチア青年約30人が残留している。

コチア(ソロカバナ線)、サンパウロより南38軒、バルゼン、グランデに類似した土地である。当地はコチア産組の発祥地として有名であり、曾ては、日系パタタ生産者が多かったが土地が荒廃したので現在では同線より奥のイビウナ、ピラール・ド・スール、カッボン・ボニートへ移った。

インディアツバ(ソロカバナ線)、サンパウロより100軒、日本からの進出企業もあり、工業が発達している。周辺にピメント、イタイン、カル

デアル、エルベチア等約280家族の日系農家があるが、ほとんどが借地農である。当地に日系人が入植したのは戦後であり、日本人が初めてトマトの大規模栽培をしたが、それが気候に適していたところから益々増加し、現在400家族を越えている。トマト祭りを催す程で、市の発展に寄与するところ大である。

## 2. ソロカバナ線

オーリンニョスからプレジデンテ・ブルデンテ、ポルト・エビターシオにかけて落花生、トウモロコシ、米、牧畜、養鶏が主であるが、戦後移住者は、牧畜を除いた上記作物を栽培しており、最近は果樹に切り換えるものが多い。

オーリンニョス近郊にあるノーボムンド移住地は、愛媛・北海道出身者を主体とした移住地で入植当初、養鶏、雑作、カフェーで出発したが養鶏不況により果樹に転換した。現入植者数は18家族である。

ソロカバナ沿線に沿って存在する都市の消費目あての各都市近郊を菜栽培者の大半が戦後移住者で、プ・ブルデンテでは特に多く、大部分が沖縄出身者で親類の呼寄せである。

本地帯の如き、粗放的大規模機械化方式を要求される所では、戦後移住者の独立は容易ではない。

更に本地帯農業者の大半は、土地を持っていない関係から伯銀・州銀の融資を受けられない者が多いことに加え、市場の狭少、冬期売上げの減少等からもサンパウロ近郊へ移動を望むものが多い。

ソロカバ、人口18万、内日系人1,200人、周辺都市の中心地として発展してきた。1945年日系人がサントスより多数入植、後、百合氏により冬薯の初生産に成功、今日果樹(ぶどう)、野菜、雑作において広範囲の成

長がみられる。

戦後移住者は、約60家族が入植した。

イタペチニンガ、サンパウロより165 軒、標高640 米人口約4万、内日系人800 人程度、主産物は、パタタ・トマト・ぶどう・アバカテ等で、戦後移住者27家族の内 $\frac{2}{3}$ が単身青年できたが、戦前移住者に比し伸びている。

アピアイ、サンパウロより324 軒、標高900 米雨量は多い方である。日系人40家族の内、戦後移住者は、6家族、単身6名でいずれも成積よく1~2年の雇用歩合で働いたのち、現在は全て独立している。

主作物はトマト・雑作である。

イタベバ、サンパウロより280 軒、標高800 米雨量多く主産物は、パタタ・トマト・雑作・フェジヨン等人口5万の内、日系人300 人である。鉱物・セメント工場が出来、将来ソロカバナ線の要衝となるであろう。

戦後移住者は、3家族、ただし自営農として住居は市内に持っている。

カツボン・ボニート、サンパウロより232 軒、人口3万、内日系人200 家族標高1,000 米の交通至便な地で肥沃土のため主産物は、トマト・パタタ・雑作・玉ねぎ・アルカシヨフラ等でサンパウロを市場としている。

戦後移住者は、30 家族内単身18名位、その70%が自営農として独立している。これは、戦前移住者の指導が強かったゆめと言われている。

イタポランガ、標高530 米砂質赤色土、日系人39家族、全盛期には、棉の生産で多数の日系人で賑ったが、害虫の発生により現在のように衰微した。

戦後移住者は、5家族ですべて借地農である。

### 3. サントス・ジュキア線

サントス・サンピセンテ地区、ブラジル移住の上陸第一歩の印象ある地で歴史的にも日系人としても因縁の古い街で、第一回笠戸丸組も数家族居住しており、二世の活躍も顕著である。人口60万のうち、日系800家族と推定され、沖縄県人がその内約70%を占めている。

日系人は、主として露店市場で野菜・魚を扱うものが大半である。周辺部の農業は、野菜、主作物はシュシュ、サヤインゲン、ナス等集約的な営農を行なっている。

戦後移住者は、約200家族でその大半が沖縄県人である。とくに本年は、プライアグランデ地区のシュシュ（丘ウリ）栽培が当り軒並み100万円以上の収入があったが、主産物が限定されているところから、安定はしても大きな発展は望みにくい所である。

サントスからジュキアに至る海岸線地帯は、入植者の殆んどが自給自足の形であり、自然的環境、経済条件も悪く医療教育施設にも恵まれず定着率も良くない。地勢が海岸線の狭益な山岳地帯のため機械耕作が出来ず、又、平地は地価が高く、かつ、再生林地のため農薬、肥料代の総収入に対する比率が高い。

このような現状から本地帯は、家族労働を中心としたものが多く資本の蓄積力も少ないと見られる。戦後移住者は、主に小面積を借地し、蔬菜を主にサヤインゲン、シローその他を作り、サントス、サンパウロ方面に出荷している。

ムサセア町以西、戦前の沖縄出身者が多数を占め、戦後移住者も殆んど親類縁故呼寄せによる少数に過ぎない。30数年前から米・トウモロコシ等の雑作による半自給自足の生活状況で、換金作物は、バナナがその90%を占

めている。国道2号線の開通により、この地帯の営農転換が将来に残された大きな課題の一つであろう。

レジストロおよびその周辺一帯の日本人植民地、パイナップル・茶・バナナ等亜熱帯型農業であり、戦後養蚕移民として23家族その他200家族入植したが定着率は良い。

コチア青年は、120名位配耕されたが32名定着、 $\frac{3}{4}$ が独立している。

戦後移住者のうちイ草栽培者は、10数家族居るが大半が伸びている。日系人により開発された茶栽培は、茶そのものが頭打ち状態のため一部営農の転向を考えている者があるが、これは、近年アルゼンチンにチリー市場を犯され苦況にあるため近く日本向緑茶輸出により好転されるものと思われる。この地方では、戦前と戦後移住者との関係はとくに良好であり評判もよい。

リベイラ河流域一帯、洪水等の恐れがあるが米作に適しており労働力の供給も良いので米・バナナで収益をあげ自営農に移行しつつある。本流域一帯は、聖州政府により南聖地帯開発計画が樹てられ、日本からその技師が招かれることとなっている。将来発展が、特にサンパウロ、レジストロ、クリチーバを結ぶ国道116号線沿線は、サンパウロ・リオ街道と同様、将来サンパウロと南伯地帯（南大河州）交通の幹線として発展するであろう。

#### 4. アララクアラ線

本線地帯 かつて奥ノロエステ、ソロカバナ線地帯と共に1920年頃がカフェーの全盛地帯であった。しかし、今日、このカフェーは消えつつあり大農場の分割化が行なわれ牧畜・柑橘・養鶏・米・棉・蔬菜等に変りつつある。

ジャーレス 戦後開拓され人口5万、日系人400家族で棉・米・落花

生、カフェー・雑作等開拓20年経て順調に伸びている。しかし、戦後移住者は過半がサンパウロ方面へ移動、残った者の成績は良好である。周辺地区に旭、協和、光栄等9移住地約200家族が在住、内戦後は、約30家族。雇用農は皆無である。

**カタズーバ** 標高500米、雨量年間1,000耗前後、人口4万5,000人内日系人85家族、主として、雑作(トウモロコシ)及び無支柱トマトを栽培している。以前、300家族以上居たが、将来この地区が商業方面に発達する傾向があり、日系人も野菜売り、市場商人に転向しつつある。日系二世は、殆んどブラジル化しており戦後移住者は少ない。

この地帯は、調味用トマトの支柱なし(地這い)栽培で著名である。

**タクアリチンガ** 日系人約170家族を数えるが殆んどが分益農として食・住を雇用主に依存した生活をしている。主作物は、トマトの無支柱栽培であり、経営規模は平均して大きい。

**アララクワラ** サンパウロより340料、パウリスタ線の終点と同時にアララクワラ線の出発点となる交通の要衝にある。

戦前、35家族の日系人が現在183家族に増えているが沖縄県人が多い。農作物は、毎日トラックでサンパウロに輸送して居る。主産物は、柑橘、サトウキビ程度である。戦後移住者は、10家族入植したが農業者は3家族位である。

## 5. 中央線地帯

**サンミゲール、イタイン、ベンニヤ**各地方 土質地味共に余り良くないが、雨量に恵まれ大サンパウロ圏内にある蔬菜地帯として将来共、この狭い地帯は利用されるであろう。

二世、三世は殆んどサンパウロに出て医師、学者、技術者となり農業は一  
世のみ。戦後移住者は、余り活気のある者は少なく、農業には、地価が高く  
従って定着性もない。現在20家族程度いるが近く異動する予定である。

**イタケーラ** サンパウロより1時間の所にあり、通称「桃の里」として  
有名である。しかし、現在最盛期を過ぎ病名不明の病気発生と果樹の老令化  
により、ゴヤバ、養鶏、花に移行しつつある。その比率は果樹60%、養鶏  
30%、花卉10%である。周辺は、サンパウロの住宅地として市街地化し  
つつある。

戦後移住者は、本地帯が安定ムードの生活地帯のため割合定着率よく、歩  
合、借地の経過を辿り、将来、他の地区に土地を求め独立するパターンをと  
っている。

現在、日系人2,300人中戦後移住者は、300人程でその内単身は約  
10人である。

**ジャカレイ地帯** 事業団の経営するジャカレイ移住地を始め、不動産会  
社の作った高森、桜、イタベチ、アラカラ等各種形態の植民地があり、今後  
の植民地経営のモデルケースとして注目されるところが多い。

主作物としては、養鶏が盛んであり、霜害が少ないため果樹・花卉も栽培  
されているが、近年、蔬菜作が不安定なるため蔬菜作の多くは花作りに転向  
している。パライーバ河岸低地の土地は、極めて肥沃であるが、年々の雨期  
洪水に対する州政府の治水工事が完了しない限り、当分の間、団地（集団入  
植）形成事業の積極化は望めない。又、その殆んどが大地主の所有のため借  
地も困難な状況にある。この地帯の土地分割化が可能となれば日本人農業者  
は更に伸びるであろう。

**タウバテ、ピンダモンニヤガーバおよびその奥地帯** 戦後移住者の雇用

農は少ない。大多数は、各都市周辺の蔬菜借地農であるが小規模経営で安定している。本地帯の入植者の大部分は他地区の移動は好まず、小面積でも自分の土地を所有することを希望している。

#### 6. 旧バラナ街道地帯

**イビウナ** サンパウロより75軒、標高800米の地で、パタタを中心にトマト、野菜、花、養鶏が盛んである。

郡内日系人2,500人、コチア産組の分譲地村上植民地が約5軒の地点にある。戦後第1回のコチア青年の入植以来約100人の青年を受入れており独立者が多い。又、ドミニカ転住者も数家族入植、成功している。

**ピエダーテ** サンパウロより98軒、標高1,000米、玉ねぎ・葉野菜アルカンジョフラ・桃・柿・パタタ・マンジョキンニヤ等である。周辺日系農家約3,000家族、戦後移住者は、コチア青年約30人が夫々活躍している。

**ピラール・ド・スール** サンパウロより135軒、標高720米、砂質黒色土と砂質土壤で起伏ははげしい。パタタ、トマト、ぶどうを主産物とし周辺にバンディランテス産組、南伯産組、東山分墾地のほか事業団ピニヤール移住地がある。

**サンミゲール・アルカンジョ** サンパウロより180軒、パタタ、トマト、ぶどう、雑作等を主産物としている。同市の創設は、1890年頃で現在でもトルコ人が多い。周辺地で、コチア青年約30人内独立者15人が就労している。

#### 7. パウリスタ線

ツビー、パウリスタ、オズワルド・クルーズ地帯の主作物は、カフェー、

落花生、棉、肉牛の順でその他少数であるが米、バタタ、鶏卵等がある。

戦後移住者は、主に雑作の分益、借地農が過半数を占め、独立自営農の殆んどが雑作で、町近辺の者は蔬菜作りである。カフェー、牧畜関係の自営農は全くいない。

バストス地帯は、日系人入植の歴史も古く、現在750家族をこえる新旧移住者がいる。戦後移住者は約80家族を数える。

養鶏独立の大部分は、日本からの多額の携行金を持ってきたものか、現地の戦前移住者と親類関係にあるものである。養蚕については、現在繭の値もよく、日本からの製糸会社との提携もあり、ブラ拓製糸では毎年2-3名の直来青年を呼寄せている。又、養鶏では、信太農場等が大きくアメリカと業務提携している。

ツツパンからガルサに至る地区は、雑作・牧畜が過半数を占め、カフェー生産高は、土地の老弊化により近年減少の一途を辿っている。日系人入植者の主作物も雑作で、カフェー、牧畜に従事しているものは少数である。

戦後移住者は、50家族以上で、1960年頃近郊2-3の入植地に入ったが全員退耕し、その殆んどがサンパウロ近郊へ移動している。現在、定着している者は、呼寄せと他地区からの移動者で、その半分は、マリリヤ、ツツパンで商業、サービス業で活躍している。

#### 8. モジニア線

本地帯は、明治41年の笠戸丸渡航入植者以来の因縁多い地帯で、旧カフェー・コロノとして、日本人入植者の入った地区であるが、往年のカフェー不況からは、雑作・棉・米作りに転換し今日に至っている。

現在、存住の日系移住者は、本地域からノロエステ、ソロカバナ各線地方

や、サンパウロ近郊に移動した移住者の中で残留し、雇用農として着実な営農に精励した人達で、今日では賢実な基盤を築いている。

現在、入植者各人の所有する土地は、比較的大きく、とくに牧場経営を大きくやり、そのかわり、蔬菜・雑作・果樹を中心に集約経営を行なっている。作物は、トマト、ナス、ピーマン、玉ねぎ、胡瓜、パタタ、メロン、西瓜、柑橘が植え付けられている。

イガラパーバからイツペラーバ、グアラアにかけては、米、棉、トウモロコシが主作物であるが、戦後移住者は、僅か10数家族で主に分益農である。この地帯の標高は、400~500米、周辺の入植者は約350家族と推定される。

フランガ、バタタイス地区も同様、10数家族が蔬菜・雑作の分益農をやっている。

リベロン・ブレット 人口20万、標高600米、州内奥地最大の都市でサンパウロから325kmの所にある。市内日系人は、260家族戦後移住者は少ない。近辺に事業団直営移住地グアタバラ移住地がある。戦前、100家族程いたが、同様カフェ不況により殆んどが離脱し、町に住みついた。

## 9. ノロエステ線

アラサツバから、アンドラジーナおよびペレイラ、バレットに至る奥ノロエステ帯は、肥沃な砂質土壌の中度な波状形地帯で、雑作・牧畜地帯として発展している。

近年、新しい農業生産地帯として廻生の途上にあるといわれているが、これは、交通網の発達により広大なノロエステ地帯を中心に、マツト・グロツソ、ミナス・ヂェライス、ゴヤス各州を含む老大な地域の大集散地および商

工業の中心と化しつつある。

又、従来の当地域主産物であったカフェー樹の老朽化および牧場の老廃化と、地価の暴騰による粗放牧畜の改革等、営農形態、生産物の変革推移は必然の趨勢にあるといえよう。

戦後移住者は、初期において相当活発な導入がみられたが、現在、大耕地所有者は、上記の理由から積極的な受入の気持はみられない。

**アラサツバ** 奥ノロエステにおける中心都市として栄え、代表的日系大耕主が多数存在し模範的な農場経営を行なっている。市内とその周辺に一時は多数の戦後移住者が入ったが、現在では、サンパウロ周辺にほとんど出てしまっている。

**ミランド・ボリス** 地味肥沃の上に、アラサツバ、アンドラジーナ両都市の中間に位し、カフェー精選工場や製棉・製糖工場等がある。人口3万、日系人約2,500人を数える。

戦後移住者は、養鶏、雑作、蔬菜等の分益、借地農として20家族程度いたがその70%位移動してしまった。

**アンドラジーナ** 人口約6万人の州境の集散都市として近年発展をつまげているが周辺は大農牧地帯である。日系人は、約3,000人、戦後移住者は殆んど移動してしまった。本地帯一帯は、大資本家、大農場主等の大農牧地帯で、当分移住者受入の可能性の少ないことは、奥ノロエステ地帯共通のようである。

**アリアンサ** 戦前ブラ拓が造成・分譲したアリアンサ移住地があるが、戦後日系人は、サンパウロ市および近郊地帯に移動し、昔の面影はない。アリアンサを中心とする一帯の日系人は約1,500人位であり、カフェー・米棉・ヒマ・落花生・養鶏が主作物であり、一部牧場主もいる。

最近、乾ばつのため雑作は、不振つゞきである。牧畜は、乳牛を主とした酪農導入え移行しつつあり、牧場の老廃化再生えの転換が考えられている。

戦後移住者は、定着率悪く10家族程度しか残っていないが、成績は良好である。

しかし、戦前移住者で土地を売り、サンパウロ周辺へ出てくる者が後をたゞない。本地区は、ウルプブング発電所の完成と相俟って低湿地利用の灌漑開発計画が州政府によって考慮されているところから、将来、独立適地として別途検討されるべき地帯であろう。

付表 1. 州別・形態別百分比

	自営	借地	分益	雇用	農業外	備考	
						調査年次	調査戸数
サンパウロ	25%	29%	21%	16%	9%	39年	979戸
バラサ	36	18	28	18	-	40	705
マツトドロツソ	59	27	7	7	-	41	311
サンパウロ	37	38	15.5	9.5	-	43	1000

付表 2. 県別。

	自 営			借 地			分	
	家 族	人 員	単 身	家 族	人 員	単 身	家 族	
北海道	27	164		12	71	1	2	
青森	1	4		1	13		1	
岩手	4	22	1	5	29			
秋田	1	4		4	16		1	
宮城	3	14	1	8	33		1	
福島	29	185	1	24	148	2	13	
山形	8	42		3	15	1	1	
茨城	2	7		3	10			
埼玉	3	17	1	1	4			
群馬	10	50		6	34		6	
東京	4	17		4	15	2	1	
千葉	3	15		3	10		3	
神奈川	3	17						
静岡	2	20		6	30		5	
栃木	2	16		2	13	1		
山梨	6	43		3	17	1	2	
長野	18	91	1	6	27		2	
新潟	3	11	1	3	13		1	
富山	2	7		4	17	3	1	
福井	3	24		1	2		1	
愛知	3	20		3	20		2	
岐阜	2	20		3	12			
石川	1	5		2	10			
滋賀	3	15		1	2			
京都	1	5		2	16	1		

家族別・営農形態別

	益		雇 用			合 計			総 数
	人 員	単 身	家 族	人 員	単 身	家 族	人 員	単 身	
	9		2	11	3	43	255	4	259
	3				1	3	20	1	21
					1	9	51	2	53
	5		2	6	1	8	31	1	32
	3		1	4	2	13	54	3	57
	82	1	4	20	1	70	435	5	440
	6		1	4	1	13	67	2	69
			1	2		6	19		19
						4	21	1	22
	37					22	121		121
	2	1	1	2	1	10	36	4	40
	8	1				9	33	1	34
		1				3	17	1	18
	12		2	7	2	15	69	2	71
					1	4	29	2	31
	18		1	3	2	12	81	3	84
	11				2	26	129	3	132
	3					7	27	1	28
	4				1	7	28	4	32
	2		1	2	2	6	30	2	32
	10		2	8		10	58		58
						5	32		32
						3	15		15
						4	17		17
						3	21	1	22

	自 營			借 地			分		益		雇 用			合 計			總 計
	家 族	人 員	單 身	家 族	人 員	單 身	家 族		人 員	單 身	家 族	人 員	單 身	家 族	人 員	單 身	
兵 庫	4	16	2	2	11		2		7		1	3	1	9	37	3	40
大 阪	2	10		2	11						1	2	1	5	23	1	24
和 歌 山	14	82		12	66	1	8		38		4	18	1	38	204	2	206
奈 良																	0
三 重	6	31		3	12	1	5		23		1	3		15	69	1	70
岡 山	10	49		4	30								1	14	79	1	80
島 根	6	24		4	11								1	10	35	1	36
鳥 取				2	10									2	10		10
山 口	10	50		14	68		6		27	1	4	21	2	34	166	3	169
広 島	13	67		6	35		4		24	1	1	4		24	130	1	131
愛 媛	14	72		14	79		4		17		1	7		33	175		175
香 川	8	45		1	4	1	1		9	1				10	58	2	60
徳 島	2	8		1	3		1		2	1		1	6	5	19	1	20
高 知	17	103		14	78	1	6		29		1	14	1	38	224	2	226
福 岡	20	124		29	154	7	16		90	1	7	34	3	72	402	11	413
佐 賀	7	43		6	51		6		38		3	20	1	22	152	1	153
大 分				4	13									4	13		13
長 崎	9	56		21	142		7		37		1	4	2	38	239	2	241
熊 本	24	46		40	234		19		108		5	33	1	88	521	1	522
宮 崎	17	90		18	103	1	9		51	1	3	15	2	47	259	4	263
鹿 児 島	15	85	1	24	113	4	5		29		3	11	1	47	238	6	244
沖 縄	19	119		21	138		3		20				1	43	277	1	278
合 計	361	2,055	9	352	1,943	28	145		764	10	55	264	40	913	5,026	87	5,113

付 表 3. 独立者の営農職種別数

職 種	件 数
そ 菜	303
養 鶏	111
ト マ ト	72
果 樹	78
雑 作	67
花	53
バ タ タ	26
茶	16
養 蚕	11
カ フ ェ ー	5
牧 畜	2
苗 木	2
キ ノ コ	1
木 炭 業	1
い 草	1
養 兔	1
計	750

付表 4. 所有地面積

形態	総所有地面積	戸数当り面積
自 営 370戸	ha 4,972,822	ha 11.5783
借 地 380戸	1,028,545	1.1020
分 益 155戸	121,61	0.7846
雇 用 95戸	321,6	3.3853
合 計 1,000戸	ha 6,744,577	ha 6.7446

付 表 5. 資 産 状 況

( 単 位 NCR \$ )

内 容	金 額
土地建物 (含鶏舎)	9,275,095
永年作物	
自動車・トラック類	1,920,250
トラクター・耕運機	3,769,450
営 農 機 械	3,607,855
其 の 他 ( 植付中の作物を含む )	1,287,125
未 払 金	3,342,729
資 産 総 額 ( 除く未払金 )	34,786,630

付 表 6. 自営農家における過去1年間の収支状況

(単位NCR\$)

収	入	支	出
生産物売上	19,536,254	営 農 費	13,955,056
労 賃	97,400	不動産設備費	841,125
その他の収入	269,790	その他の支出	538,405
借入金合計	2,310,760	機械器具費	1,514,644
事業団	<38,000>	生 計 費	2,405,795
銀行	<1,651,480>	借入金返済	1,805,900
組合	<278,640>	現 預 金	2,511,396
商社商人	<135,240>		
個人友人	<145,830>		
パトロン	<16,300>		
その他	<45,270>		
携行資金	35,000		
前年度繰越	1,323,117		
合 計	23,572,321	合 計	23,572,321

付 表 7. 自営農家における現在の営農状況

作物名	件数	面積(Ha)	作物名	件数	面積(Ha)
人参	48	130.25	雑作	5	56.00
トマト	19	17.01	大豆	2	2.41
マンジョカ	35	28.63	トモロコシ	23	196.68
ペテラーバ	7	8.24	サトウキビ	1	1.60
ビメントン	6	5.63	アモンドイン	6	19.84
ナス	12	9.37	米	13	45.76
アルファセ	3	1.03	カフエー	10	26.06
コーペフロー	10	13.89	茶	16	157.90
レポーリヨ	3	2.50	イ草	2	2.70
アルカショフラ	19	49.91	桑	6	56.60
ジロー	2	0.52	苗木	1	3.60
キヤボ	1	0.72	花	9	14.15
ペビーノ	7	3.00	バラ	17	15.43
バタドーセ	4	7.11	グラジオラス	6	16.50
アボブラセッカ	11	15.24	カーネーション	9	10.30
エルビーリヤ	4	1.44	養鶏	71	326,400羽
バタタ	12	62.72			
バージエン	18	7.34			
セポーラ	4	3.21			
大根	1	0.40			
果樹	20	31.58			
アバカテ	4	3.20			
桃	30	32.44			
ゴヤーバ	5	2.10			
ウーバ	44	29.74			
ビワ	9	2.74			
梨	3	0.51			
ラランジャ・ボンカン	21	17.93			
リモン	3	0.71			
柿	5	1.59			
アメイシヤ	1	2.42			
マモン	2	0.90			
リンゴ	3	0.38			
アバカシ	2	10.00			
モランゴ	25	24.40			
西瓜	1	3.00			
バナナ	10	94.40			

付表 8. 借地農家における現在の営農状況

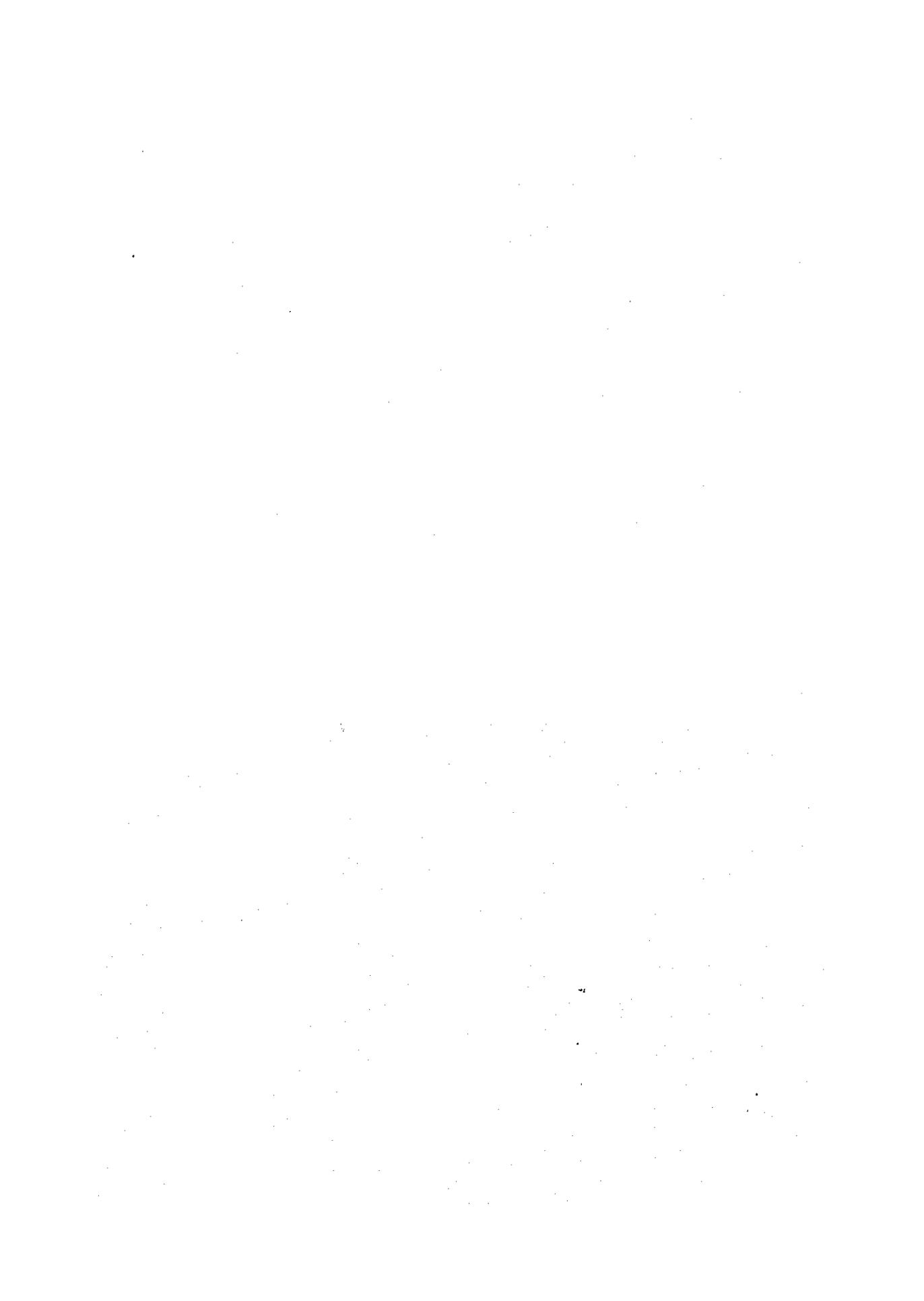
作物名	件数	面積 (Ha)	作物名	件数	面積 (Ha)
そ 菜	86	179.44	ア ー リ ョ	1	0.25
セ ボ ー ラ	3	8.66	米	11	149.93
コーベフロール	3	6.18	ア メ ン ド イ ン	15	235.81
アルファツセ	45	110.80	ア ル ゴ ド ン	13	214.86
ア グ リ オ ン	6	3.27	ソ ー バ	1	1.20
セ ノ ー ラ	16	15.81	フ ェ ジ ョ ン	2	252.1
バ ー ジ ン	28	17.76	桑	1	4.80
アポブリーニヤ	10	12.03	花	19	24.51
ビメントン	14	13.10	バ ラ	12	135.9
エスカローラ	2	3.94	グ ラ ジ オ ラ ス	6	31.24
エスピナーフレ	1	0.24	菊	2	10.75
レボーリヨ	15	17.86	養 鶏	16	62,550 羽
アスパラガス	4	4.56	養 蚕	2	380 Ha
ベテラーバ	4	2.40	養 兎	1	1,000 匹
ベ ビ ー ノ	12	4.49	牛	1	1,000 頭
ベリンジエーラ	2	0.55	ク ル タ ラ リ オ	2	288 Ha
ジ ロ ー	2	1.70	(紙原料)		
ブロックリー	2	1.29	き の こ	1	0.63 Ha
ビメンタ	2	1.68			
ナ ー ボ	3	1.56			
ト マ ト	81	177.46			
バ タ タ	31	317.09			
マンジヨキンニヤ	7	14.19			
果 樹	4	4.51			
カ キ	2	2.45			
バ ナ ナ	1	4.80			
ウ ー バ	1	0.20			
ラ ラ ン ジ ヤ	1	0.30			
ゴ ヤ ー バ	2	0.90			
リ モ ン	2	3.00			
ビ ワ	2	2.57			
イ チ ゴ ン	13	61.00			
マ モ ン	1	7.20			
西 瓜	4	19.12			
桃	11	16.84			
雑 作	11	336.82			
カ フ エ ー	1	2.00			
ミ ー リ ョ	24	216.10			



付表 10. 雇用農の給与状況 (註) 全て住宅付き。

NCR\$ 条件	0	30	36	40	50	60	75	80	85	90	95	100	110	120	130	135	140	150	160	170	180	200	220
食事付 (人数)	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	7	1	1	2	2	1	2	1	1	2	1	1
食事なし (人数)					1					1		5	3	12	14	3	2	7	3	4	5		
件数合計 (人数)	3	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	12	3	13	14	3	2	9	3	1	4	7	1
金額合計 NCR\$	0	60	72	80	150	120	150	160	170	180	95	1200	350	1560	1820	370	280	1,350	480	170	720	1,409	220

	230	250	270	290	300	360	400	500	600	650	1,000	合計
1					1							37
	4	2	5	1	1	1	1	2	1	1		79
1	4	2	5	1	1	2	1	2	1	1		116
	230	1,000	540	1,450	300	360	800	500	1,200	650	1,000	19,167



リオ・グランデ・ド・スール州

サンタ・カタリーナ州

2.1表 戦後移住

地域名	地区名	家族	同人口	単独移住			計
				妻帯	同人口	単身	
海岸地域	オゾリオ(イタチ)	3	22	3	8	1	31
	サンタ・ヴィトリア・ダ・バルマル	3	18	1	2		20
中央盆地地域	カジョエラ・ド・スル	5	33			1	34
	カジョエリーニヤ	1	3				3
	カノアス	3	17				17
	エステイオ	3	17	1	4		21
	グラバタイ	16	94	2	10		104
	グアイバ	2	14	1	3	1	18
	ポルト・アレグレ市	10	55	5	21	18	94
	郊外	27	166	8	21	5	192
ミッソンエス地域	サンタ・マリア	15	83	6	20		103
	ヴィアモン	6	28	2	7	2	37
	カツイベ	1	5				5
	イタキ					1	1
	サンチャゴ	1	5			1	6
	サント・アンジェロ			1	4	2	6
中高原地域	サン・ボルジャ	2	13	1	5	5	23
	サン・ルイス・コンザガ					1	1
	アレグレッテ	2	14	2	6	3	23
	バジエ	5	33	5	20	2	55
東南山岳地域	リブラメント	3	21	4	19	1	41
	サン・ガブリエル					1	1
	ウルグァイアナ	2	11	3	15		26
東南山岳地域	カングス	1	12				12
	アロイオ・グランデ	2	11				11

家族分布表

地域名	地区名	家族	同人口	単独移住			計
				妻帯	同人口	単身	
東南傾斜地	カマクアン	3	15				15
	ベロッタス	14	95	3	13	1	109
ウルグァイ上流地域	エレッセン	1	3			2	5
	シルア			3	10	2	12
高原地域	ラゴア・ヴェルメーリヤ	1	5	1	3		8
	バカリヤ	1	3				3
平原地域	カラジーニョ	1	15				15
	クルス・アルタ	3	26			1	27
	イジュイ	4	22	1	6	1	29
	マラウ			3	10	2	12
	パソ・フンド	1	5	2	7	2	14
東北下部傾斜地地域	エスタンシャ・ヴェーリヤ	2	7	1	2		9
	イボチ	10	50	6	28	3	81
	モンテ・ネグロ	2	13			3	16
	ノーボ・ハンブルグ	3	17			1	18
	ポルトン	4	24	2	9		33
	サント・アントニオ・ダ・パトルーリヤ	1	3	1	3	2	8
	サン・レオポルド	10	57	1	4		61
	サン・セバスチオン・デ・カイ	1	5				5
	リオ・グランデ・ド・スル州計	175	1,040	69	260	65	1,365
	カタリーナ州	フロリアノ・ポリス			5	15	2
クリチバーノ・ラーモス		7	51	1	5		56
カタリーナ州	移住地	2	11	2	10		21
	及その他						
サンタ・カタリーナ州計	9	62	8	30	2	94	
合計		184	1,102	77	290	67	1,459

2.2表 地域別形態表(1)

形態 地区	農 業					商 業					形態 不明	合 計
	独	借	分	雇	計	独	分	雇	その他	計		
オゾリオ(イタチ)	3											3
サンタ・ヴィトリア・ ダ・パルマル		1									2	3
カシヨエラ・ド・スレ	2	1				1	1					5
カシヨエリーニヤ		1										1
カノアス	1	1	1									5
エステイオ	1	2										3
グラバタイ	3	10	1								2	16
グアイバ	1		1									2
ポルト・アレグレ 市 内						7	2	1				10
郊 外	1	22	4									27
サンタ・マリア	5	4	2						4			15
ヴィアモン	1	5										6
カツイベ		1										1
イタキ												
サンチャゴ			1									1
サント・アンジェロ												
サン・ボルジャ		2										2
サン・ルイス・コンサガ												
アレグレッテ		1	1									2
バジエ		4				1						5
リブラメント	1		2									3
サン・ガブリエル												
ウルグアイアナ		1							1			2
カングス	1											1

家族移住者

形態 地区	農 業					商 業					形態 不明	合 計
	独	借	分	雇	計	独	分	雇	その他	計		
アロイオ・グランデ	1		1									2
カマクアン	1	2										3
ベロッタス	4	7	1	1					1			14
エレッシェレ			1									1
ジ ル ア												
ラゴア・ベルメーリヤ	1											1
バカリア		1										1
カラジーニヨ		1										1
クルス・アルタ		3										3
イジュイ		4										4
マラウ												
パソ・フンド	1											1
エスタンジャ・ ヴェーリヤ	1	1										2
イボチ	10											10
モンテ・ネグロ	1	1										2
ノーボ・ハンブルグ	1	2										3
ポルトン	3	1										4
サント・アントニオ・ ダ・パトルーニヤ	1											1
サン・レオポルト	2	6		1		1						10
サン・セバスチ ョン・デ・カイ	1											1
リオ・グランデ・ド・スル州	48	85	16	2	151	10	3	1	6	20	4	175
サンタ・カタリナ州	7	2			9							9
合 計	55	87	16	2	160	10	3	1	6	20	4	184

2.3表 地域別形態表(2)

形態 地区	農 業				商 業				形態 不明	合 計	
	独	借	分	雇	計	独	分	雇			その他
オゾリオ(イタチ)	1										1
サンタ・ヴィトリア・ ダ・バルマル											1
カシヨエラ・ド・スル		1									1
カシヨエリーニヤ											
カノアス											
エステイオ											
グラバタイ											
グアイバ		1									1
ポルト・アレグレ 市内					5	4	4		5		18
郊 外		2	5								5
サンタ・マリア											
ヴィアモン		2									2
カツイペ											
イタキ			1								1
サンチャゴ				1							1
サント・アンジェロ			2								2
サン・ボルジャ		4	1								5
サン・ルイス・コンサガ		1									1
アレグレッテ		1	1								3
バジエ		1			1						2
リブラメント			1								1
サン・ガブリエル		1									1
ウルグァイアナ											
カンダス											

単独移住・現在単身

形態 地区	農 業				商 業				形態 不明	合 計		
	独	借	分	雇	計	独	分	雇			その他	計
アロイオ・グランデ												
カマクアン												
ペロッタス				1							1	
エレッシェン			2								2	
シルア	2										2	
ラゴア・ベルメーリヤ												
バカリア												
カラジーニョ									1		1	
クルス・アルタ									1		1	
イジューイ	1								1		1	
マラウ			2								2	
パツ・フンド			2								2	
エスタンシャ・ ヴェーリヤ												
イボチ	3										3	
モンテ・ネグロ	1	1								1	3	
ノーボ・ハンブルグ			1								1	
ポルトン												
サント・アントニオ・ ダ・バトルーリヤ			2								2	
サン・レオポルド												
サン・セバスチ ョン・デ・カイ												
リオ・グランデ・ド・スル州	8	24	9	2	43	6	4	4	1	15	7	65
サンタ・カタリナ州											2	2
合 計	8	24	9	2	43	6	4	4	1	15	9	67

2.4表 地域別形態表(3)

形態 地区	農 業				商 業				形態 不明	合 計	
	独	借	分	雇	計	独	分	雇			その他
オゾリオ(イタチ)	3										3
サンタ・ヴィトリア・ ダ・バルマル										1	1
カシヨエラ・ド・スル											
カシヨエリーニヤ											
カノアス											
エステイオ		1									1
グラバタイ	1	1									2
グアイバ		1									1
ポルト・アレグレ 市内					2	1	2				5
郊外		6	2								8
サンタ・マリア	2	3	1								6
ヴィアモン	2										2
カツイベ											
イタキ											
サンチャゴ											
サント・アンジェロ		1									1
サン・ボルジャ		1									1
サン・ルイス・ゴンサガ											
アレグレッテ		2									2
バジエ		1	1		2					1	5
リブラメント	1	3									4
サン・ガブリエル											
ウルグァイアナ		1	1							1	3
カンダス											

単独移住・現在妻帯

形態 地区	農 業				商 工 業				形態 不明	合 計		
	独	借	分	雇	計	独	分	雇			その他	計
アロイオ・グランデ												
カマクァン												
ベロッタス		1							2		3	
エレッシェン												
ジルア	3										3	
ラゴア・ベルメーリヤ			1								1	
バカリア												
カラジーニョ												
クルス・アルタ												
イジューイ	1										1	
マラウ				1		2					3	
バッソ・フンド		1	1								2	
エスタンジャ・ ヴェーリヤ	1										1	
イボチ	6										6	
モンテ・ネグロ												
ノーボ・ハンブルグ												
ポルトン	2										2	
サント・アントニオ・ ダ・パトルーリヤ		1									1	
サン・レオポルド		1									1	
サン・セバスチ ョン・デ・カイ												
リオ・グランデ・ド・スル州	22	25	8		55	6	1	2	3	12	2	69
サンタ・カタリナ州	1	3			4						4	8
合 計	23	28	8		59	6	1	2	3	12	6	77

2.5 表 戦後移住者・家畜保有数

家畜別	独立時の保有頭数				1968年現在					
	保有頭数				金額 (NCR \$ 1.00)					
	リオ・グラン デ・ド・スル	サカカ	サンタリナ	計	リオ・グラン デ・ド・スル	サカカ	サンタリナ	計		
牛	92			92	152	15	167	3,1000	5,600	3,6600
馬	90			90	159	2	161	30,584	400	30,984
豚	529		10	539	553	188	741	29,820	1,6880	46,700
鶏	40,450			40,450	11,490		11,490	25,720		25,720
その他	18			18	62		62	270		270
金額合計								117,394	2,2880	140,274

(注) 1968年現在

リオ・グランデ・ド・スル州 127 家族

サンタ・カタリナ州 8 "

計 135 "

2.6表 地域別家畜保有数

(金額 NCr \$ 1,00)

地域別	牛			馬			豚			鶏			その他			金額合計
	家族	頭数	金額	家族	頭数	金額	家族	頭数	金額	家族	羽数	金額	家族	頭数	金額	
海岸地域				4	6	900	2	4	350	2	40	90				1,340
中央盆地地域	11	28	7,100	35	43	8,060	7	43	3,830	3	840	1,550				20,540
ミッソンエス "	1	4	600	6	10	1,210				1	50	60	1	2	130	2,000
中高高原 "	5	44	4,600	18	37	5,194	5	23	790	3	115	290	1	50	100	10,974
東南山岳 "				1	3	300	1	2	100							400
東南傾斜地 "	5	29	6,900	14	31	8,520	7	19	990	3	310	870				17,280
ウルグアイ上流 "				1	4	400	1	5	400							800
高原 "							1	2	200							200
平原 "	4	13	3,200	3	5	950	6	420	21,150	1	15	20				25,320
東部下傾斜地 "	6	34	8,600	18	20	5,050	9	35	2,010	4	10,120	22,840	2	10	40	38,540
リオ・グランデ・ド・スル州	32	152	31,000	100	159	30,584	39	553	29,820	17	11,490	25,720	4	62	270	117,394
サンタ・カタリナ州 (ラーモス移住地)	6	15	5,600	2	2	400	8	188	16,880							2,280
合計	38	167	36,600	102	161	30,984	47	741	46,700	17	11,490	25,720	4	62	270	140,274

1戸当り平均(各家畜別の保有家族数を基にして)

リオ・グランデ・ド・スル州	5	970	2	310	14	770	676	1,510	16	70
サンタ・カタリナ州 (ラーモス移住地)	3	930	1	200	24	2,110				
合計	4	960	2	300	16	990	676	1,510	16	70

1戸当り平均(全家畜保有家族数即ち リオ・グランデ・ド・スル州127 サンタカタリナ州8 計135家族を基にして)

リオ・グランデ・ド・スル州	1.2	244	1.3	241	4.4	235	90.5	203	0.5	2	924
サンタ・カタリナ州 (ラーモス移住地)	1.9	700	0.3	50	23.5	2,110					2,860
合計	1.2	271	1.2	230	5.5	346	85.1	191	0.5	2	1,039



2.8表 地域別耕作面積と生産物販売額(2)

(金額 NCr \$ 1,00)

地域別	ハナヤサイ		人		参		ビーマン		販売額	
	家族数	ha	家族数	ha	販売数量	販売額	家族数	ha		販売数量
海岸地域	3	1.1	-	-	箱	-	2	0.2	箱 550	3,000
中央盆地	10	7.7	3	2.0	300	5000	9	3.0	3,950	19,170
ミッソンエス	-	-	3	1.2	320	1,700	-	-	-	-
中高原	2	0.3	4	4.0	910	7,100	-	-	-	-
東南山岳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東南傾斜地	-	-	1	0.1	100	1,000	-	-	-	-
ウルグアイ流	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上高原	1	1.0	2	0.6	500	6,000	-	-	-	-
平原	1	0.1	3	1.1	250	3,200	-	-	-	-
東北下部	4	3.4	3	1.2	960	5,850	3	0.9	570	3,050
傾斜地	21	13.6	19	10.2	3,540	29,850	14	4.1	5,070	25,220
リオ・グラン ド・スル州	-	-	3	0.6	502	1,583	-	-	-	-
サタリナ州	-	-	22	10.8	3,842	31,433	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 家族数は各地域別耕作家族数を示す。

2.9表 地域別耕作面積と生産物販売額(3)

金額 NCr \$1.00)

地域別	花 (バラ、グラジオラス、菊 カーネーション)		果 (メロン、西瓜、アボカド、イチゴ)		雑穀 (米、小麦、大豆、フエソ、トウモロコシ)		菜		その他 (養鶏、養豚を含む)		
	家族数	販売額 ha	家族数	販売額 ha	家族数	販売額 ha	家族数	販売額 ha	家族数	販売額 ha	
海岸地	-	-	-	-	-	-	2	1.0	2300	-	-
中央盆地	12	4.9	4	7.0	1	5.0	51	458	240815	11	12.602
ミッドエス	-	-	2	1.5	1	5.0	9	172	24800	-	-
中高原	-	-	-	-	-	-	6	88	41500	7	22000
東南山岳	-	-	-	-	-	-	-	7-	-	-	-
東南傾斜地	-	-	-	-	1	0.7	7	75	41500	4	25400
ウルグアイ	-	-	-	-	5	235.0	2	50	12000	5	6000
上高原	-	-	-	-	-	-	2	0.3	5000	-	-
高原	-	-	2	0.3	3	680	6	156	29600	8	70700
平	3	1.1	5	5.4	-	-	14	133	66110	5	83410
東傾斜地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北下部	15	6.0	13	14.2	11	313.7	99	114.5	463625	40	220412
東傾斜地	-	-	-	-	5	14.0	10	9.1	10108	8	13670
リオン・グラブ	-	-	-	-	16	32.77	109	123.6	473733	48	233782
ト・スル州	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サカタリナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
州計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 家族数は各地域別耕作家族数を示す。

2.10表 都道府県別・移住者数

都道府県	リオ・グランデ・ド・スル州				サンタ・カタリナ州				合 計
	家 族	人 員	単 身	計	家 族	人 員	単 身	計	
北海道	76	459	2	461	3	26			487
青森			1	1					1
岩手	2	10		10					10
宮城					1	5			5
秋田	2	7		7					7
山形	1	5	2	7					7
福島	11	65	1	66					66
新潟	3	10	1	11					11
茨城	2	7		7					7
栃木			1	1					1
群馬	6	28	2	30			1	1	31
埼玉	2	9		9					9
千葉県	3	17	2	19					19
東京都	3	15	3	18					18
神奈川県	4	15	3	18					18
山梨	1	4		4					4
長野	2	6	2	8					8
静岡県	3	16	1	17					17
富山	1	10	1	11					11
石川	2	8	1	9					9
岐阜			2	2					2
愛知	2	7	2	9					9
三重	1	5		5					5
福									
井									

リオ・グランデ・ド・スル州 309世帯 単身も一世帯  
 サンタ・カタリナ州 19世帯 総人員 1,459

都道府県	リオ・グランデ・ド・スル州				サンタ・カタリナ州				合 計
	家 族	人 員	単 身	計	家 族	人 員	単 身	計	
滋賀	1	4		4					4
京都	2	5		5					5
大阪									
兵庫	2	9	3	12	1	5		5	17
奈良									
和歌山	2	12		12					12
鳥取	1	3		3					3
島根									
岡山			1	1					1
広島	1	5	1	6					6
山口	8	42	2	44	1	7		7	51
徳島	1	4		4					4
香川			1	1					1
愛媛	2	10	1	11					11
高知	2	8		8					8
福岡	6	26	2	28	1	3		3	31
佐賀	3	12		12					12
長崎	12	73	1	74	2	13		13	87
熊本	38	214	3	217	1	7		7	224
大分	2	14	1	15					15
宮崎	11	60	4	64	1	3		3	67
鹿児島	13	59	13	72	5	20		20	92
合 計	234	1,263	60	1,323	16	89	1	90	1,413
出不明者	10	37	5	42	1	3	1	4	46

2.1.1 表 家族移住者の学歴別形態表

学 歴 形 態		大 学	旧高専	旧 中	高 校	中 学	旧高小	小 学	不 明	計
		農	独	3	5	6	6	5	17	7
業	借		4	9	9	4	43	10	8	87
	分		1	3		4	4	1	3	16
	雇						1		1	2
計		3	10	18	15	13	65	18	18	160
商 業	独	2		1	2		5			10
	分					1	2			3
	雇					1				1
	その他			1			4		1	6
計		2		2	2	2	11		1	20
形態不明					1		2	1		4
合 計		5	10	20	18	15	78	19	19	184

リオ・グランデ ・ド・スル州	5	10	20	17	14	73	17	19	175
サンタ・ カタリナ州	-	-	-	1	1	5	2	-	9
合 計	5	10	20	18	15	78	19	19	184

(注) 独立, 高校の中, 国立及び県立農業試験場課程  
 終了者 1, 農専中退 1 を含む  
 借地, 旧高専の中, 外国専門 1 を含む

2.12表 単独青年移住者の学歴別形態表

形態		学歴								計
		大学	旧高専	旧中	高校	中学	旧高小	小学	不明	
農 業	独	2		1	20	4	2		2	31
	借	4		3	23	15	1	1	5	52
	分				13	2			2	17
	雇				1	1				2
計		6		4	57	22	3	1	9	102
商 業	独	2			5	3	1		1	12
	分				4	1				5
	雇	1			5					6
	その他				3		1			4
計		3			17	4	2		1	27
形態不明		4			3	4	1		3	15
合計		13		4	77	30	6	1	13	144
リオ・グランデ ・ド・スル州		10		4	75	28	5	1	11	134
ナンタ カタリナ州		3			2	2	1		2	10
合計		13		4	77	30	6	1	13	144

(注) 借地, 中学のうち 中退1を含む

2.13表 現在独立農（家族）の着伯年次別携行資金

携行ドル 着伯年次	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	計
	\$			1			3	5	4	2	2		
1 ~ 100	1				1	3	1		1				7
101 ~ 300					2		1	1	4				8
301 ~ 500							1	1	2				4
501 ~ 700		1			1		1		1				4
701 ~ 1,000									3				3
1,001 ~ 1,500							1	1					2
1,501 ~ 2,000						1				1			2
2,001 ~ 3,000					1								6
3,001 ~ 5,000													
5,001 ~							1			1			2
計	1	1	1		5	7	11	8	17	4			55
携行資金総額	18	600	0		3,755	2,225	13,030	5,300	15,980	7,700			48,608
一 家族平均	18	600	0		751	318	1,185	663	940	1,925			884

(注) リオ・グランデ・ド・スル州 48  
 サンタ・カタリナ州 7

計 55

2.14表 家族移住者。形態別携行資金

携行ドル 形態別	農			業			計
	独	借	分	原	業	形態不明	
0 \$	17	39	10	1	9	4	80
1 ~ 100	7	10	1		2		20
101 ~ 300	8	21	3	1	4		37
301 ~ 500	4	4	1		3		12
501 ~ 700	4	3					7
701 ~ 1,000	3	5	1		1		10
1,001 ~ 1,500	2	1			1		4
1,501 ~ 2,000	2	2					4
2,001 ~ 3,000	6	1					7
3,001 ~ 5,000		1					1
5,001 ~	2						2
計	55	87	16	2	20	4	184
携行資金総額	48,608	26,420	21,900	200	4,850	0	82,268
一家族平均	884	304	147	100	243	0	447
(注) リオ・グランデ・ド・スル州	48	85	16	2	20	4	175
サンタ・カタリナ州	7	2	-	-	-	-	9
計	55	87	16	2	20	4	184

商業家族の中 判明している独立家族数 10

2.1.5 表 単独青年移住者の形態別携行資金

携行ドル	形態別		形態別				商工業	形不	態明	小計	合計
	独	借	分	雇	雇						
0 \$	単身	1	8	5	1	8	6	29	71		
	妻帯	10	15	6		6	5	42			
1 ~ 50	単身	3	9	1	1	4		18	32		
	妻帯	4	6			4		14			
51 ~ 100	単身	1	1	1		1	1	5	7		
	妻帯	1				1		2			
101 ~ 200	単身	2	1	2		1		4	9		
	妻帯		2	1		1		5			
201 ~ 500	単身	3	3	1		1	1	5	12		
	妻帯		2			1		7			
501 ~ 1,000	単身	1	1				1	3	8		
	妻帯	3	2					5			
1,001 ~ 2,000	単身	1						1	2		
	妻帯						1	1			
2,001 ~	単身	1	1					2	3		
	妻帯		1					1			
計	単身	8	24	9	2	15	9	67	144		
	妻帯	23	28	8	0	12	6	77			
携行資金総額	単身	6,176	5,535	396	50	753	1,310	14,220	26,847		
	妻帯	3,867	5,845	650	0	765	1,500	12,627			
リョウグンチ・ド・スル州		30	49	17	2	27	9	134			
サンタ・カタリナ州		1	3	0	0	0	6	10			
計		31	52	17	2	27	15	144			

(注) 商・工・従事者の中判明して  
いる独立数  
商 単身 6  
妻帯 4  
工 妻帯 2  
計 12

2.16表 単独青年移住者の着伯年次別携行資金

着伯年次 携行ドル	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	計
0 \$					0 3	0 12	0 13	0 12	0 8	0 9	0 9	0 2	0 2	0 1		0 71
1 ~ 50			10 1	40 1	130 1	110 4	110 3	530 14	150 3	95 2	50 1	111 3				1226 32
51 ~ 100							60 1	60 1		80 1	300 3	100 1	60 1			600 7
101 ~ 200							120 1	120 1		650 4		476 3		200 1		1446 9
201 ~ 300				280 1					510 2	600 2	300 1					1690 6
301 ~ 500						400 1			500 1		1780 4					2680 6
501 ~ 700										550 1						1080 2
701 ~ 1000	1000 1						1900 2	1900 2	800 1		1800 2					5500 6
1001 ~ 1500							1500 1	1500 1								1500 1
1501 ~ 2000							1825 1	1825 1								1825 1
2001 ~ 3000										2500 1						2500 1
3001 ~ 5000											3600 1		3200 1			6800 2
計	1000 1		10 1	850 1	130 6	510 16	510 17	5935 32	1960 15	4475 20	7830 21	687 9	60 3	3400 3		26847 144
一人平均	1,000		10	142	8	30	185	131	224	373	76	20	1133		186	

リオ・グランデ・ド・スル州 サンタ・カタリナ州

単身 65 2 67  
 妻帯 69 8 77  
 計 134 10 144

2.17 表 家族移住者の着伯年次と携行資金

着伯年次 携行ドル	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	計
	0 \$			2		10	15	12	17	16	6	2	
1 ~ 100	1				3	4	2	4	6				20
101 ~ 300					10	3	6	7	10	1			37
301 ~ 500					4		1	1	5	1			12
501 ~ 700		1			1		1	1	3				7
701 ~ 1000						1	1	1	5	1		1	10
1,001 ~ 1,500							3	1					4
1,501 ~ 2,000						1		1		2			4
2,001 ~ 3,000					1	1		1	4				7
3,001 ~ 5,000							1						1
5,001 ~							1			1			2
計	1	1	2		29	25	28	34	49	12	2	1	184
携行資金総額	18	600	0		7,695	6,765	22,700	9,915	22,375	11,400	0	800	82,268
一家族平均	18	600	0		265	271	811	292	457	950	0	800	447

(注) リオ・グランデ・ド・スル州

サンタ・カタリナ州

計

175

9

184

2.18表 農家形態別稼働力 家族移住者

稼働力 現在の農家形態	稼働力										計	リオ・グ ランド・ ド・スル	サンタ・ カタリナ	計	
	1 以内	1.1~2.0	2.1~3.0	3.1~4.0	4.1~5.0	5.1~6.0	6.1~7.0	7.1~8.0	8.1以上	計					
独	1	20	7	10	11	6							48	7	55
借	1	29	20	22	10	3	1		1				85	2	87
分		8	3	2	3								16		16
雇		2											2		2
計	3	59	30	34	24	9	1		1				151	9	160

(注) 上表稼働力の労働換算は下表による。

稼働力換算表

年 性別	令									
	~ 5	6~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~		
男	0	0.3	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	0.6		
女	0	0.3	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.4		

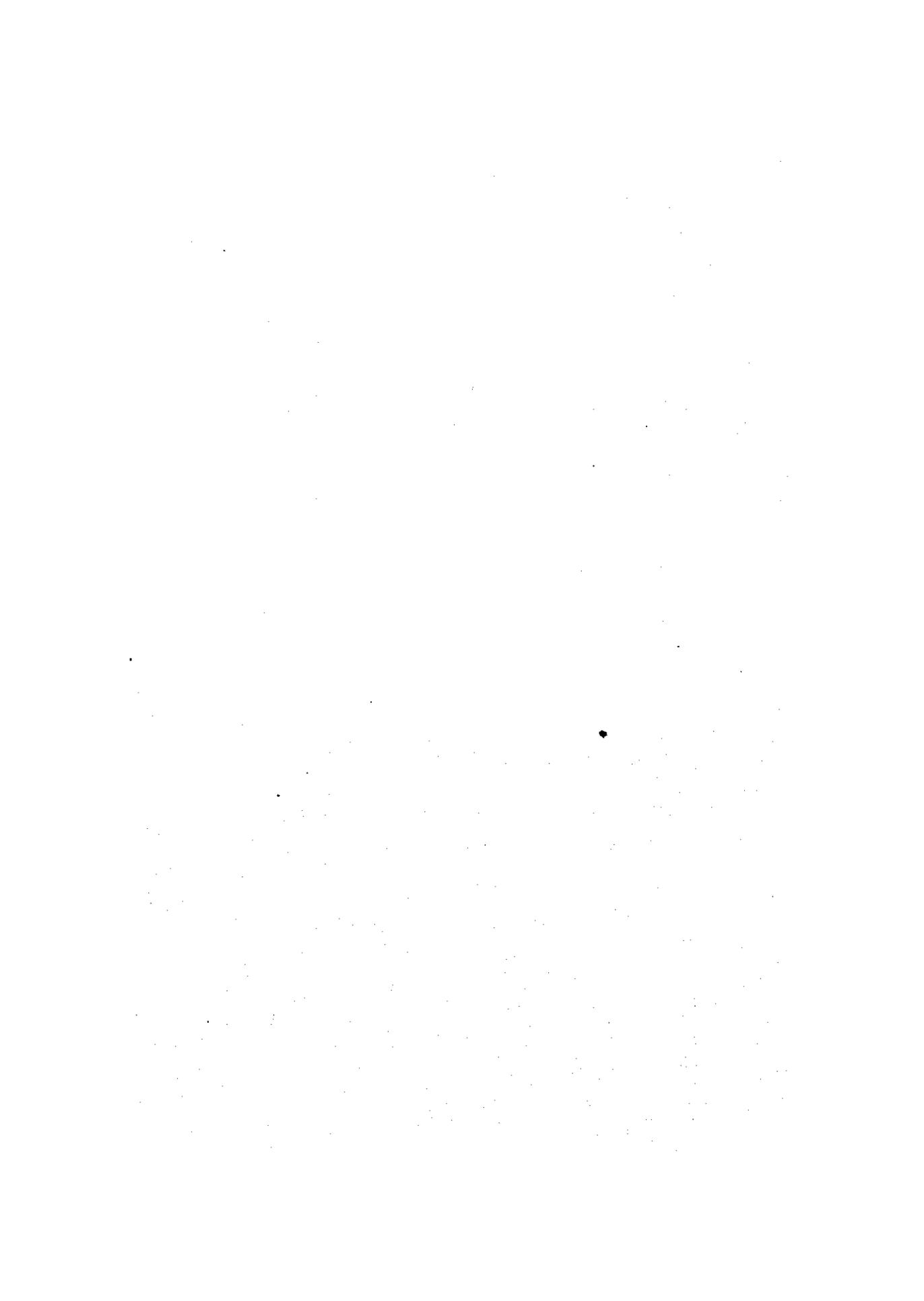
2.1.9 表 単独移住青年の現況(1) 現在单身

移住形態 現在の形態	現在单身										計		
	コチア青年	スザノ産組	農拓協隊	農友会	ボス連 1カウ イト盟	東実研 山習修 農場生	県人会	力行会	日伯協会	事業団		呼寄	その他
立			2					1			3	1	6
立	5												2
地		1					1	2		3	8	4	24
益	1									2	4	2	9
用								1			1		2
計	6	1	2				1	4		6	16	7	43
立	1									1		2	6
益	1						1				3		4
用													4
他								1	1	1	1	1	4
計	2						1	1	1	2	4	3	15
形態不明	1						1			2	2	3	9
合計	9	1	2				2	5	1	10	22	13	67

(注) サンタ・カタリナ州 单身2 (移住形態、事業団及呼寄、現在の形態不明)を含む。

2.20 表 単独移住青年の現況(2) 現在妻帯

移住形態 現在の形態	コチア青年	マウア産組	農拓協	農友会	ボス連 リカ イウ ト盟	東表研 山習修 農場生	県人会	力行会	日伯協会	事業団	呼寄	その他	計
	立	4	1	3							3	8	4
立			2	1						7	11	5	3
地	2												28
益	1				1	1				1	2	2	8
用													0
計	7	1	5	1	1	1				11	21	11	59
立								1		1	2	2	6
益											1		1
用											2		2
他										1	2		3
計								1		2	7	2	12
形	2										1	3	6
態	9	1	5	1	1	1		1		13	29	16	77
不													
明	8		5	1	1	1		1		13	25	14	69
計	(不明)	(独農)									(借不明)	(不明)	8
合	9	1	5	1	1	1		1		13	29	16	77
計	9	1	5	1	1	1		1		13	29	16	77



2.2.1 表 単独移住青年の現況(3)

現在単身 67 妻帯 77 計 144

移住 形態	現在の 形態	コチア青年	マウア産組	スザノ産組	農拓協	青年隊	農友会	ポス連  カウ イ・ト盟	東英研 山習修 農場生	県人 会	力行 会	日伯協 会	事業 団	呼寄	その他	計
		農業	立 独	4	1								1		4	11
	立 共			1	5					1	2		10	19	9	52
	借 地	7			2		1						3	6	4	17
	分 益	2						1			1			1		2
	雇 用															
	計	13	2		7		1	1	1	1	4		17	37	18	102
商工業	立	1							1	1	1		2	2	4	12
	益	1												4		5
	用												1	3		6
	池											1	1	2	1	4
	を															
	計	2							1	1	2	1	4	11	5	27
形態不明		3							1				2	3	6	15
合計		18	2		7		1	1	3	2	6	1	23	51	29	144
リオ・グラン ド・スル州		17	1		7		1	1	3	2	6	1	22	46	27	134
サンタ・カタ リナ州		1	1								6	1	1	5	2	10
計		18	2		7		1	1	3	2	6	1	23	51	29	144

2.22表 単独青年移住

配偶者 移住形態 現在の形態		花 嫁 呼 寄								
		コ チ ア	農 拓 協	青 年 隊	ホ ス 連 カ イ ウ ・ ト 盟	東 山 農 場	研 修 生	事 業 団	呼 寄	そ の 他
農 業	独 立	1					2	2	4	1
	共 同 独 立			3						
	借 地			2			1	3	1	
	分 益 雇 用	1			1	1				
計		2		5	1		3	5	5	1
商 工 業	独 立 雇 用 そ の 他							1		
	計							1		
形 態 不 明										
合 計		2		5	1		3	6	5	1

(注) 上表に含むサンタ・カタリナ州の内訳

サンタ・カタリナ州					(借地) 2		
-----------	--	--	--	--	-----------	--	--

者の現地結婚数

一 世				二 世					外 国 系			計	
農 友 会	事 業 団	呼 寄	そ の 他	コ チ ア	力 行 会	マ ウ ア 産 組	事 業 団	呼 寄	そ の 他	コ チ ア	呼 寄		そ の 他
	1	6		1		1				1			20
				1									3
1	4	6	3				2	1		1	1	1	28
		1	2				1				1		8
				2									0
1	5	13	5	2		1	3	1		2	2	1	59
	1	1			1			1					6
											2		1
											2		2
	1	2											3
	2	3			1			1			2	2	12
			1	1				1	1	1		1	6
1	7	16	6	3	1	1	3	3	1	3	4	4	77

			(不明) 1	(独農) 1	(不明) 1	(不明) 1	(借地) 1	(不明) 4	8
--	--	--	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	---

2.23表 家族移住者の

滞泊年数 回数	4				5				6			
	独	借	分	雇	独	借	分	雇	独	借	分	雇
0												
1					2				4	2		1
2		1								2		
3										1	1	
4												
5												
6												
計		1			2				4	5	1	1
合計	1				2				11			

滞泊年数 回数	11				12				13			
	独	借	分	雇	独	借	分	雇	独	借	分	雇
0												
1		4	2									
2	2	4	2									
3	2							1				
4	1	2										
5		2										
6												
計	5	12	4						1			
合計	21								1			

(注) 農家 リオ・グランデ・ド・スル州 151

滞泊年数と移動回数

7				8				9				10			
独	借	分	雇	独	借	分	雇	独	借	分	雇	独	借	分	雇
					1			1	1			1	1	1	
6	6	2	1	3	8	2		4	2			1	6	1	
6	6	2		3	7	1		2	2			1	4	1	
4	7			2	2			3	6			4			
1	1							1	3						
	1						1						1	1	
17	21	4	1	8	19	3		11	14			7	12	4	
43				30				25				23			

14				15				計				合計
独	借	分	雇	独	借	分	雇	独	借	分	雇	
								2	3	1		6
	1							18	31	7	2	58
1				1				16	26	6		48
								16	16	1		33
								3	6			9
									4	1		5
									1			1
1	1			1				55	87	16	2	160
12				1 1				160				

サンタ・カタリナ州9 計160

2.24表 単独青年移住者の

滞伯年数と移動回数

滞伯年数		4	5	6	7	8	9	10		11	12	13	14	15	16	17	計
0	単身			1							1						2
	妻帯			1													1
1	単身	1	1		4		1	1		3	2						13
	妻帯			2	2	5	4	7		2	4		1				27
2	単身	1	2	4	7	2	4	5		1	1	1				1	29
	妻帯				5	5	2	4		4	2	3					25
3	単身	1			1	2	1	2									7
	妻帯				2	2	2	4		2		2					14
4	単身					2	1	4		3							10
	妻帯					1	1	3		1	3						9
5	単身			1				2		1	2						6
	妻帯										1						1
6	単身																
	妻帯																
計	単身	3	3	6	12	6	7	14		8	6	1				1	67
	妻帯			3	9	13	9	18		9	10	5	1				77
合計		3	3	9	21	19	16	32		17	16	6	1			1	144
リオ・グランデ・ド・スル州		3	3	9	21	16	15	31		16	13	6	1				134
サンタ・カタリナ州						3	1	1		1	3					1	10
計		3	3	9	21	19	16	32		17	16	6	1			1	144

2.25表 単独青年移住者の

現在妻帯者

回数	独立							借		
	コチア青年	マウア産組	農青年協隊	事業団	呼寄	その他	計	コチア青年	農青年協隊	事業団
0										
1					2	1	3	2		1
2	2	1	1	2	2	1	9		1	4
3	1		2		2	2	7		1	
4	1			1	2		4			2
5										
6										
合計	4	1	3	3	8	4	23	2	2	7

(注) 上表に含むサンタ・カナリナ州の内訳:

独立1(マウア産組, 回数2) 借地3(呼寄, 回数

移動回数と営農形態(1)

(農業従事59)

地			分益							雇用	計
呼寄	その他	計	コチア青年	ボス連 1カ イウ ト盟	東山 農場	研修 生	事業 団	呼寄	その他		
4	4	11				1	1		1	3	17
3	1	9		1				1		2	20
1		2	1					1	1	3	12
2		5									9
1		1									1
11	5	28	1	1	1	1	1	2	2	8	59

各々1, 4, 5) 計4

2.2.6 表 単独青年移住者の移動回数と営農形態(2)

現在単身者(農業従事者43)

営農形態 移住形態 回数	独立				借地				分益				雇用		計	
	農青年 拓年 協隊	力行 行会	事業 業団	呼寄 その他	コチア 青年	スザノ 産組	県人 人会	力行 行会	事業 業団	呼寄 その他	コチア 青年	事業 業団	呼寄 その他	力行 行会		呼寄
0													1			1
1				1									2			10
2	1		1	2						1			2			15
3	1	1														4
4										3					1	7
5							2			1						6
6										1						
合計	2	1	1	3	1	1	2	3	8	5	1	1	2	4	2	43

(注) サンタ・カタリナ州 現在単身, 農業従事者なし

2.27 表 家族移住者・着伯時農家形態と移動回数

( 農業従事 160 家族 )

着伯時 形態 現在の形態 回数	独 立			借 地			分 益			雇 用			計			合 計				
	独	分	雇	独	借	分	雇	独	借	分	雇	独	借	分	雇					
																	借	分	雇	借
0					1			2	2	1						2	3	1	6	
1	1					1		13	28	6			3		2	18	31	7	58	
2	1				1			11	23	6			4	2		16	26	6	48	
3								9	15	1			5	1		16	16	1	33	
4								2	5				1	1		3	6		9	
5									4	1							4	1	5	
6													1				1		1	
計	2			3	2	1		37	77	15		13	8		2	55	87	16	2	160
																48	85	16	2	151
																7	2			9
																55	87	16	2	160

リオ・グランデ・ド・スル州	48	85	16	2	151
サンタ・カタリナ州	7	2			9
計	55	87	16	2	160

2.2.8 表 単独青年移住者・着伯時農家形態と移動回数(1)

現在・妻帯者（農業従事者59）

着伯時 形態 現在の 回数	独 立		借 地		分 益		用 居		計		合 計	
	独	分	独	分	独	分	独	分	借	分		
0												
1					1	4	2	7	3	11	3	17
2					1	5	4	4	9	9	2	20
3					2	1	5	1	7	2	3	12
4					2	3	2	2	4	5		9
5								1		1		1
6												
計			1		9	13	2	13	15	28	8	59

リオ・グランデ・ド・スル州	22	25	8	—	55
サンタ・カタリナ州	1	3	—	—	4
計	23	28	8	—	59

2.29表 単独青年移住者・着伯時農家形態と移動回数(2)

現在・単身者(農業従事43)

着伯時 形態	立			借			地			分			益			雇			用			計			合 計			
	独	分	雇	独	借	分	雇	分	借	独	分	雇	分	借	独	分	雇	分	借	独	分	雇	分	借		独	分	雇
0																											1	
1				1					4	2																	3	10
2									2	1																	5	15
3									1																		2	4
4									1																		6	7
5									2																		6	6
6																												
計				1					9	2																	9	43

リオ・グランデ・ド・スル州	8	24	9	2	43
サンタ・カタリナ州	-	-	-	-	-
計	8	24	9	2	43

2.30表 地区別土地代

及び借地料(耕作地)

地区名	土地代 ha	借地料 ha 年間	(haヘクタール当り) (単位NCr\$1.00)		
			地区名	土地代 ha	借地料 ha 年間
オゾリオ(イタチ)	1.060	0	カマクアン		
サンタ・ヴィトリア・ダ・バルマル			ベロツタス	2.220	
カシヨエラ・ド・スル	1.250		エレツシエン		
カシヨエリーニヤ		40	ジールア	2.60	30
カノアス	1.200		ラゴア・ヴェルメーリヤ	1.000	
エステイオ			バカリヤ		
グラバタイ	3.430		カラジーニヨ		200
グアイバ	1.670	130	クルス・アルタ		
ポルト・アレグレ市内	1.310		イジユイ	6.70	80
" " 郊外	3.020	70	マラウ		
サンタ・マリア	1.220	530	バツソ・フンド	5.60	120
ヴィアモン	6.70	1.60	エスタンジャ・ヴェーリヤ	2.90	
カツイベ			イボチ	1.950	
イタキ			モンテ・ネグロ	1.020	100
サンチャゴ			ノーボ・ハンブルグ	1.180	40
サント・アンジェロ		60	ポルトン	6.60	
サン・ボルジャ			サント・アントニオ・ダ・パトルーリヤ	3.000	150
サン・ルイス・ゴンザガ			サン・レオポルド	5.000	110
アレグレツテ			サン・セバスチオン・デ・カイ	2.000	
バジエ			リオ・グランデ・ド・スル州平均	1.560	79
リブラメント	2.670		フロリアノ・ポリス		
サン・ガブリエル		150	クリチバーノ・ラーモス移住地	1.60	
ウルグァイアナ			アラランガ及びその他		70
カングス	3.50		サンタ・カタリナ州平均	1.60	70
アロイオ・グランデ	1.330		全平均	1.467	78

(注)

	独立	借地
家族	55	87
単独	23	28
妻帯	8	24
単身		
計	86	139

-94-

(注)

ポルト・アレグレ市内在住・商業従事者2名を含む

-95-

2.31 表 事業団融資利用現況

(金額 NCr\$1.00)

融資年度	件数	融資金額	平均	主作物	備考
1957	1	2,500	2,500	トマト 1件	
1963	2	2,000	1,000	トマト 2件	
64	2	11,640	5,820	トマト1件, 小麦・大豆1件(共産)	共同経営は1件とした。
65	2	900	450	トマト 2件	
66	24	69,360	2,890	トマト17件, 養鶏2件, イチゴ1件 花野菜1件, 苧粟3件	
67	8	22,200	2,775	トマト 8件	
リオ・グランデ・スル州	39	108,660	2,785		
1964	4	3,000	750	トマト1件, 馬鈴薯1件, 養豚2件	
65	4	3,000	750	馬鈴薯3件, 養豚1件	
サンタ・カタリナ州	8	6,000	750		
合計	47	114,600	2,438		

2.3.2 表 地域別事業団融資貸付表

(1963年～1967年) (金額NCR\$1.00)

地区名	件数	融資金額	平均	主作物
オソリオ(イタチ)	6	18,000	3,000	トマト, 苺菜
グラーバタチ	3	4,840	1,613	トマト, 苺菜
グアイバ	1	200	200	トマト
ポルト・アレグレ郊外	1	700	700	トマト
サンタ・マリア	1	2,200	2,200	トマト
ヴァイアモン	1	1,650	1,650	トマト
シール	1	11,000	11,000	小麦・大豆(共同経営を1件とした。)
イジニ	1	1,000	1,000	トマト
イボチ	19	59,360	3,124	トマト, 養鶏, イチゴ, 花野菜, 苺菜
モンテ・ネグロ	1	1,000	1,000	トマト
ポルトン	3	6,150	2,050	トマト, 苺菜
リオ・グランデ州	38	106,100	2,792	トマト,
サンタ・カタリナ州 クイバーノ(ラモス移住地)	8	6,000	750	トマト, 馬鈴薯, 養豚, 雑穀
合計	46	112,100	2,437	

(注) 1957年貸付1件は含まれない。

2.3.3 表 独立時に於ける独立資金調達状況(1)

— 家族移住者 —

(金額 NCr\$1.00)

独立資金 独立年次	自己資金		借入金				合計		
	金額	%	事業団		銀行		その他		
			金額	%	金額	%	金額	%	
1961	500	100						500	100
62	23,400	87			300	1	3,100	26,800	100
63	4,700	82	1,000	18				5,700	100
64	15,300	66	3,000	13	5,000	21		23,300	100
65	17,350	89	2,250	11				19,600	100
66	8,740	61	35,720	25	14,000	10	5,500	41,426	100
67	43,600	79	1,200	20	3,000	46	600	55,400	100
68	3,500	54						6,500	100
計	195,790	70	53,170	19	22,300	8	9,200	328,046	100

(注) 百分率は各年度の資金調達総額に対する%である。

リオ・グランデ・ ド・カタル ファミリー移住地	48
計	55

2.3.4 表 独立時に於ける独立資金調達状況(2)

単独青年移住者

(金額NOF\$100)

独立資金 独立年次	独立資金 家族数	自己資金		借入金						合計					
		金額	%	事業団	銀行	組合	その他	金額	%	金額	%				
												金額	%	金額	%
1961															
62															
63	2	1,500	60	1,000	40								2,500	100	
64	9	16,000	32	11,640	23	148,60	30					7,500	15	50,000	100
65	2	13,800	95	750	5									14,550	100
66	11	26,250	44	31,640	53							2,000	3	59,890	100
67	6	13,500	55	11,000	45									24,500	100
68	1	6,000	100											6,000	100
計	31	77,050	49	56,030	36	148,60	9					9,500	6	157,440	100
リオ・グランデ ド・スル	8														
リオ・グランデ ド・スル	22														
サンタ・カタリナ	1														
計	31														

(注) 百分率は各年度の資金調達総額に対する%である。

2.35表 独立・借地農の資

(リオ・グランデ・ド・スル州)

農業形態	品目	独立 (86件)		
		総額	%	1戸当りの平均
固定資産	土地	932,750	41.6	10,846
	家屋	180,550	8.1	2,099
	倉庫	63,150	2.8	734
	畜舎	38,650	1.7	449
	設備	37,500	1.7	436
	機械器具	344,448	15.4	4,005
	車輛	299,410	13.4	3,482
	永年作物	219,180	9.8	2,549
	家畜	75,990	3.4	884
	家具什器	49,500	2.2	576
	小計	2,241,128		26,060
流動資産	組合出資金	24,475		285
	現金・預金	69,117		804
	在庫品	46,797		544
	植付中作物	310,120		3,606
	小計	450,509		5,238
	合計	2,691,637		31,298
負債	未払金	137,770		1,602
	借入金	229,525		2,669
	小計	367,295		4,271
	差引合計	2,324,342		27,027

(上記百分率は固定資産総額に

産状況 (家族及び単独) (1)

・サンタ・カタリナ州)

(金額NCr\$1.00)

借地 (123件)		
総額	%	1戸当りの平均
29,000	3.5	236
54,680	6.7	445
14,320	1.7	116
1,500	0.2	12
12,500	1.5	102
361,172	44.0	2,936
257,930	31.4	2,097
3,050	0.4	25
60,200	7.3	489
26,810	3.3	218
821,162		6,676
3,264		27
53,045		431
52,123		424
376,550		3,061
484,982		3,943
1,306,144		10,619
118,417		963
129,028		1,049
247,445		2,012
1,058,699		8,607

(注)

借地139件の  
中資産表の明  
確は123件

対する固定資産各々の百分率を示す)

2.36表 独立農・借地農の資産

状況(単独・家族を合せる)

リオ・グランデ・

ド・スル州

(金額NCr\$100)

農業形態 品目	独立 (78件)			借地 (119件)			
	総額	%	1戸当りの 平均	総額	%	1戸当りの 平均	
固定資産	土地	898,650	4.60	11,521	29,000	3.6	244
	家屋	1,645,500	8.4	2,110	51,730	6.5	435
	倉庫	553,500	2.8	710	14,320	1.8	120
	畜舎	360,500	1.8	462	1,500	0.2	13
	設備	357,000	1.8	458	12,500	1.6	105
	機械器具	3,166,480	16.2	4,060	342,762	42.9	2,880
	車輛	2,983,100	15.3	3,824	257,930	32.2	2,167
	永年作物	473,300	2.4	607	3,050	0.4	26
	家畜	531,100	2.7	681	60,200	7.5	506
	家具什器	470,000	2.4	603	26,810	3.4	225
小計	1,952,698		25,035	799,802		6,721	
流動資産	組合出資金	240,750		309	1,614		14
	現金・預金	622,800		798	52,435		441
	在庫品	350,300		449	52,123		438
	植付中作物	287,300		3,683	344,150		2,892
	小計	408,685		5,240	450,322		3,784
合計	2,361,383		30,274	1,250,124		10,505	
負債	未払金	111,770		1,433	96,917		814
	借入金	202,955		2,602	84,340		709
	小計	314,725		4,035	181,257		1,523
差引合計	2,046,658		26,239	1,068,867		8,982	

(注)

借地134件の中資産表の明確は119件

(上記百分率は固定資産総額に

対する固定資産各々の百分率を示す)

2.37表 独立・借地農の資

(サンタ・

農業形態 品目		独立 (8件)		
		総額	%	1戸当りの 平均
資 定 産	土地	34,100	11.8	4,265
	家屋	16,000	5.5	2,000
	倉庫	7,800	2.7	975
	畜舎	2,600	0.9	325
	設備	1,800	0.6	225
	機械器具	27,800	9.6	3,475
	車輛	1,100	0.4	138
	永年作物	171,850	59.6	21,481
	家畜	22,880	7.9	2,860
	家具什器	2,500	0.9	313
小計		288,430		36,054
産 動 資 産	組合出資金	400		50
	現金・預金	6,837		855
	在庫品	11,767		1,471
	植付中作物	22,820		2,853
	小計	41,824		5,228
合計		330,254		41,282
負債	未払金	26,000		3,250
	借入金	26,570		3,321
	小計	52,570		6,571
差引合計		277,684		34,711

(上記百分率は固定資産総額に

産状況 (家族及び単独) (2)

カタリナ州)

(金額NCr\$1.00)

借地 (4件)		
総額	%	1戸当りの 平均
2,950	-1.38	738
18,410	86.2	4,603
21,360		5,340
1,650		413
610		153
32,400		8,100
34,660		8,665
56,020		14,005
21,500		5,375
44,688		11,172
66,188		16,547
-10,168		-2,542

対する固定資産各々の百分率を示す)

(注)

借地5件の中  
資産表の明確は  
4件で差引合計  
赤字

(注)

独立はクリチバ  
ーノ・ラーモス  
移住地  
借地はアララン  
ガ及びその他の  
地区

2.38 表 独立農の資産状況

(単位 NCr\$1.00)

資産金額	家族数	
	リオ・グランデ・ド・スル州	サンタ・カタリナ州
～ 5,000	3	
5,001 ～ 10,000	14	
10,001 ～ 20,000	27	1
20,001 ～ 30,000	11	2
30,001 ～ 50,000	18	5
50,001 ～ 100,000	3	
100,001 ～	2	
計	78	8
平均	26,000	35,000
総平均	27,000	

2.39表 独立農・地域別資産状況(家族及び単独)

(リオ・グランデ・ド・スル州78件 サンタ・カタリナ州8件 計86件)

地区名	品目																(金額NCr\$100)		
	土地	家屋	倉庫	畜舎	設備	機器	機 具	車 輛	永 年 物	家 畜	家 具	組 出 資 金	合 金	現 預 金	在 庫 品	植 付 中 物	合 計	未 払 金	借 入 金
オゾリオ(イタチ)	76,000	11,000		1,500		23,850		9,450		10,400		150	4,500	2,750	64,400	194,640	12,200	8,000	174,440
カショエラ・ド・スル	25,000	15,400	1,000			8,300		27,000			8,000				500	85,200	1,500		83,700
カノアス及びエステイオ	12,000	4,000				13,600		24,500		200						54,300			54,300
グラバタイ	34,000	8,500	2,400		200	7,450		26,500	130	1,400	3,500	100	5,800	300	11,100	101,380	10,300	7,300	83,780
グアイバ及びボ・アレグレ郊外	160,000	26,000	5,000		150	800		400		380						196,330			196,330
サンタ・マリア	58,750	7,700	500		4,000	21,500		22,700		930				4,450	12,600	133,130	6,050	7,700	119,380
ヴィアモン	31,600	3,550	1,400	300	200	17,950		9,200		630		85	15,200	5,000	8,000	93,115	10,900		82,215
リブラメント	16,000							3,850		1,700			1,280		4,000	26,830		1,250	25,580
カン・グス	3,500							4,000		400						7,900	1,600	900	5,400
アロイオ・グランデ	4,000	2,000			500	5,700		6,000		1,000		100			500	19,800		4,000	15,800
カマクァシ及びペロッタス	72,000	22,300			9,150	28,300		23,600		8,660	35,000	20,050	7,500	4,550	50,600	281,710	7,300		274,410
ジルア	54,000	3,000	4,000	1,000	2,000	13,000		39,200		800	500	200	1,000	1,500	15,000	135,200	28,000	40,000	67,200
ラゴア・ヴェルメーニヤ	10,000	4,000				8,000		8,000				500				30,500			30,500
イジュイ及びパソ・フンド	23,100	4,200				16,600		17,300		2,550		1,050			2,300	67,100	3,000	2,000	62,100
エスタンシャ・ヴェーリヤ	23,000	3,500	800			1,800		10,000		440				200	19,000	58,740		2,000	56,740
イボチ	191,200	51,000	22,450	30,000	18,500	72,400		44,500	45,200	23,220		1,650	24,000	11,930	87,300	577,450	9,780	103,360	464,310
モンテ・ネグロ	13,000	16,000	2,000	250	1,000	37,000		810		360		50	1,000	1,000	4,000	76,470	13,400		63,070
ノーボ・ハンブルグ	6,000	2,000	1,000			6,350		1,500	400	2,170				450		19,870	750	650	18,470
ポルトン	49,000	23,500	6,000	3,000		17,500		13,000	1,600	5,230		40		1,300	2,000	122,170	4,700	14,000	103,470
サント・アントニオ・ダ・パトルーリヤ	6,500	1,500	800			4,000		200		800				600		14,400			14,400
サン・レオポルド	20,000	1,300	8,000			6,998				1,100			1,000		5,000	45,398		11,000	32,398
サン・セバスチオン・デ・カイ	10,000					5,550		3,000		100		100	1,000	1,000	1,000	21,750	2,290	795	18,665
サンタ・カタリナ州 ラーモス移住地	34,100	16,000	7,800	2,600	1,800	27,800		11,000	171,850	22,880	2,500	400	6,837	11,767	22,820	330,254	26,000	26,570	277,684
総額	932,750	180,550	63,150	38,650	37,500	344,448		299,410	219,180	75,990	49,500	24,475	69,117	46,797	310,120	2,691,637	137,770	229,525	2,324,342
1戸当り平均	10,846	2,099	734	449	436	4,005		3,482	2,549	884	576	285	804	544	3,606	31,298	1,602	2,669	27,027

海外移住事業団

東京都新宿区本塩町8の2

(住友生命四谷ビル)

電話 東京(03)359-8281(代)

